SPORT

調布市スポーツ推進計画

2024
▼
2030

CHOFU

はじめに

令和元（2019）年にラグビーワールドカップ 2019 日本大会が市内の東京スタジアム（味の素スタジアム）で開催され，「ワンチーム」をスローガンに結束して戦った日本代表チームの雄姿は，多くの市民の記憶に刻まれました。

また，新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大する未曽有の事態の中，令和３（2021）年には，東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が１年延期で開催されました。市内では，東京スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザ，武蔵野の森公園を競技会場として６競技が開催され，世界最高峰のアスリートの熱戦が調布から世界に向けて配信されました。

幸運にもこれらの世界的スポーツ大会が市内で開催された調布市としては，大会を契機としたスポーツ機運の高まりや，性別，年齢，障害の有無，国籍等の違いを受け入れて互いに認め合う共生社会を育むことの重要性を大会のレガシーとして継承・発展させ，次代のまちづくりにつなげていかなければなりません。

スポーツは「世界共通の人類の文化」であり，スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは，全ての人々の権利です。また，スポーツは我々の健康な身体を育み，健康の維持・増進に寄与するのみならず，青少年の健全育成，文化振興，平和への貢献，地域経済活性化の推進など，多様な力を秘めています。

今回策定する「調布市スポーツ推進計画」において，市はスポーツを「する」「みる」「ささえる」の視点から，市民のスポーツ活動を推進するとともに，年齢や障害の有無等を問わず，広く市民がスポーツに親しみ，楽しめるスポーツ環境の充実に取り組んで参ります。また，トップスポーツチームとのパートナーシップの強化や大規模スポーツイベントの開催支援，スポーツをハブとした他分野との連携の推進等を通じて，スポーツを通したまちのにぎわいの創出，市民交流の促進を図って参ります。

そして，計画の実現に向け，調布市の特性を生かし，調布市スポーツ推進委員会や調布市スポーツ協会，総合型地域スポーツクラブである調和ＳＨＣ倶楽部などのスポーツ関連団体，トップスポーツチーム，民間事業者，大学等，様々な主体との連携・協働により推進して参りますので，引き続き，御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに，このたびの計画策定に当たっては，調布市スポーツ推進審議会委員の皆様に御議論いただくとともに，アンケートやパブリック・コメント手続により市民及び関係団体の皆様から広く御意見をいただきました。改めて，衷心より感謝申し上げます。

令和６年３月

調布市長　長友貴樹

第１章　スポーツ推進計画策定に当たって.....1
1　策定の背景・趣旨.....2
2　計画の位置付け.....5
3　計画の期間.....5
4　計画が対象とするスポーツの範囲.....6
5　スポーツの力.....8
第２章　スポーツを取り巻く現状.....9
1　社会情勢の変化.....10
（1）人生 100 年時代の到来.....10
（2）持続可能な社会への移行.....10
（3）多様性を認め合うまちの実現.....10
（4）国際スポーツ大会のレガシー.....11
（5）デジタル技術革新の進展.....11
2　国や都の動向からみる社会潮流.....12
（1）国の潮流.....12
（2）都の潮流.....14
3　市を取り巻く現況及び市の特徴.....15
（1）スポーツをする場.....15
（2）スポーツを支える担い手.....16
（3）スポーツによるにぎわいの創出.....18
4　市のスポーツ推進の現状.....23
（1）「する」スポーツについて.....23
（2）「みる」スポーツについて.....26
（3）「ささえる」スポーツについて.....28
（4）子どものスポーツについて.....30
（5）障害者スポーツ（パラスポーツ）について.....32
5　計画策定の視点.....34
視点 1.....34
視点 2.....34
視点 3.....34

第３章　市の目指す姿 35
1　将来像 36
2　基本目標 37
3　成果指標・目標値 42
（１）成果指標・目標値 42
（２）成果指標の考え方 42
4　計画の全体像 43
第４章　施策の展開 45
1　体系図 46
2　各施策 48
基本目標１　スポーツ活動の推進 48
基本目標２　スポーツ環境の充実 58
基本目標３　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進 68
第５章　計画の着実な推進 79
1　推進体制 80
2　進行管理 81
資料編 83
1　市内スポーツ施設 84
2　調布市スポーツ推進計画策定体制 87
3　調布市スポーツ推進審議会委員 88
4　調布市スポーツ推進計画検討会議メンバー 89
5　調布市スポーツ推進計画策定経過 90

第 1 章　スポーツ推進計画策定に当たって

1　策定の背景・趣旨
2　計画の位置付け
3　計画の期間
4　計画が対象とするスポーツの範囲
5　スポーツの力

1　策定の背景・趣旨

現在の社会は，超高齢社会，高度情報化の進行や社会構造の変化により，ライフスタイルや価値観が変化，多様化しています。人々のスポーツ活動についても，生涯にわたる心豊かな市民生活，健康や生きがい，仲間づくりといった生活の質（ＱＯＬ=Quality Of Life）や自己実現など多様な目的により行われています。一方，日常生活における運動不足による生活習慣病など，健康への関心も高まっています。

平成 23 年３月に発生した東日本大震災や，平成 28 年４月に発生した熊本地震は，未曽有の被害をもたらし，現在も全国で復興支援への取組が行われています。この間，「心身の健康や癒し」「地域・家族の絆」などが再認識され，様々なアスリートの復興に向けた活動や市民スポーツによる交流で「スポーツの力」が，人々に勇気や希望を与える活動として着目されています。

調布市でも，平成 25 年９月 28 日から 10 月 14 日まで「東日本大震災復興支援スポーツ祭東京 2013（第 68 回国民体育大会・第 13 回全国障害者スポーツ大会）」が開催され，メイン会場である東京スタジアム（味の素スタジアム）での開・閉会式をはじめ，サッカーと陸上競技，障害者スポーツ大会の陸上競技とボウリングが行われ，多くの市民がスポーツに親しむ機会となりました。

平成 25 年９月に開催が決定された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下，「東京 2020 大会」という。）の招致も被災地の復興の歩みと大会の歩みを重ね合わせながらスポーツを通した大きな力となるよう世界へアピールされました。また，平成27年９月には，ラグビーワールドカップ2019™日本大会（以下，「ラグビーワールドカップ 2019」という。）の東京都の試合会場が新国立競技場から調布市にある東京スタジアム（味の素スタジアム）で開催されることが決定しました。市は，こうした世界最大級のスポーツイベントの開催に向け，多様な主体と連携しながら，有形・無形のレガシー創出を目指し，様々な取組を展開しました。

アジア初となる 2019 年のラグビーワールドカップでは，海外から 24 万人を超える人々を含めて延べ 170 万人の観客がスタンド観戦し，また世界中の人々にデジタルメディア[1]やＳＮＳ[2]等を通じて試合が配信されました。大会では日本代表チームが初の決勝トーナメントに進出し，「ワンチーム」をスローガンに結束して戦う姿を通して，多くの人々が感動を分かち合いました。加えて，スポーツにおけるホスピタリティ[3]の

1　機械による読み取りが可能な記録形式でコード化された全てのメディアを指す。デジタルメディアはコンピュータ上で作成，閲覧，配信，修正，保存可能。

2　Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で，インターネット上で，ユーザー同士が繋がる場を提供するサービスの総称。「Facebook」，「X」（旧 Twitter），「Instagram」，「LINE」など。

3　スポーツホスピタリティとは「する・みる・ささえる」スポーツを行う人々が，そこに「あつまる」ことで，これまで以上に「より良く楽しむ」ことを可能とする取組・行為全般を示す概念。スポーツ

向上に向けた取組をはじめ，6,400 億円超とも言われる我が国への経済波及効果や，東日本大震災の被災地も含めた全国各地での開催がその地域の活性化に貢献するなど，我が国のスポーツ界や社会に大きく貢献することを通じて，スポーツの意義を再確認する契機となりました。市内の東京スタジアム（味の素スタジアム）においては，開会式・開幕戦を含む８試合が行われ，約 38 万人の観客が訪れるとともに，調布駅周辺では東京都が主催するファンゾーン[4]が開催され，16 日間で延べ約 13 万人が訪れました。これらのことは，多くの市民の記憶に刻まれ，スポーツに対する関心や期待感が高まり，翌年に予定されていた東京 2020 大会に向けた機運の醸成につながりました。

しかしながら，令和２年に入り，世界的な規模で，新型コロナウイルス感染症の拡大が急速に進み，同年３月には，東京 2020 大会の１年延期が決定しました。国内のスポーツイベント等の開催自粛や全国一斉の学校休業要請が行われる中，同年４月には，我が国初の緊急事態宣言が発令され，人々の日常生活は一変し，スポーツ活動どころか外出することすらはばかられるような厳しい環境下での生活を送らざるを得なくなりました。

他方，新型コロナウイルス感染症の影響下にあって，様々なスポーツ活動が中止・延期等を余儀なくされ，スポーツに親しむ機会が失われていった一方で，我が国のスポーツ関係者は，そうした状況を打開するため，ガイドラインを策定して感染症対策を徹底し，無観客開催や入場者数制限，あるいはデジタルを活用した新しい観戦方法の導入といった様々な創意工夫を凝らしながら，スポーツイベントや児童・生徒，学生などの大会を開催するなど，スポーツを通じて，人々や社会を勇気づける取組，日常を取り戻す取組が続けられました。

こうした状況の中，令和３年夏，原則無観客での実施とはなりましたが，１年延期された東京 2020 大会が開催され，世界中から集まったトップアスリートによる数々の熱戦が繰り広げられ，国内の多くの人々にその様子が届けられました。市内では，東京スタジアム（味の素スタジアム），武蔵野の森総合スポーツプラザ，都立武蔵野の森公園において６競技が開催され，無観客ながらも，世界最高峰のアスリートの熱戦が調布から世界へ向けて配信されました。

市は，こうしたラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会を契機としたスポーツに対する機運の高まりを，今後ともレガシーとして継承・発展させていくことが重要です。とりわけ，東京 2020 大会においては，「多様性と調和」を基本的なコンセ

の観戦に食事やエンターテイメントを組み合わせたプロダクトなどを指す。

4　大型スクリーンによるパブリックビューイングや飲食の提供等，試合チケットの有無にかかわらず，無料で誰もが気軽に訪れることができる場として，ラグビーワールドカップ 2019 期間中に開催都市に設置された。都内では，東京都主催により，多摩地域と区部の２か所に設置された。区部は，有楽町の東京スポーツスクエアに，多摩地域は，調布駅前広場や調布市グリーンホール等に設置され，調布では全 16 日間で延べ 13.2 万人が来場した。

プトの一つとして，「オリ・パラ一体」がキーワードとしてあげられ，選手同士の交流や双方の競技等への理解が進みました。これらの大会全体を通して，性別，年齢，障害の有無，国籍等の違いを受け入れて，互いに認め合う共生社会を育むことの重要性が改めて認識されました。

市においても，東京 2020 大会を契機としたパラスポーツの普及・啓発，障害当事者の運動機会の創出や障害理解の促進への取組などを更に推し進め，共生社会の充実を図っていく必要があります。

また，市内の味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザを含むエリアは，多摩地域の一大スポーツ拠点となっており，市内を活動拠点とするＦＣ東京をはじめとしたトップスポーツチーム等とのパートナーシップを強化しながら，豊富なスポーツ資源を生かしたまちづくりを進めています。

本スポーツ推進計画は，こうした背景を踏まえ，市のスポーツを取り巻く現状と課題を整理し，豊富なスポーツ資源を活用しつつ，スポーツを「する」「みる」「ささえる」の視点から，スポーツ推進に向けた方針や施策を体系化するものです。

2　計画の位置付け

本計画は，スポーツを取り巻く現状と課題を整理し，豊富なスポーツ資源を活用しつつ，スポーツを「する」「みる」「ささえる」の観点から，スポーツ施策を体系的に推進していくため，スポーツ基本法に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定するものです。

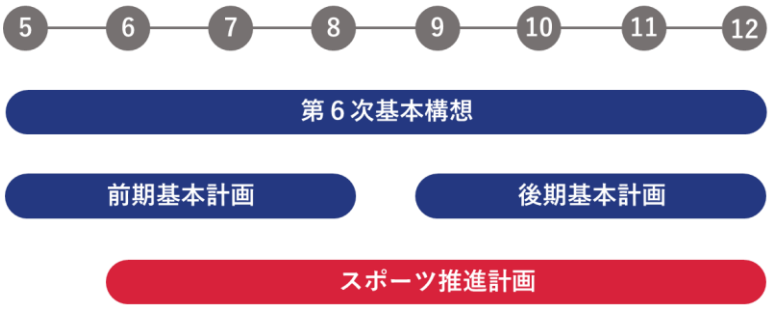
あわせて，本計画は，ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会のレガシーを踏まえるとともに，両大会を契機とした有形・無形のレガシー創出に向け策定・推進した「調布市アクション&レガシープラン」のスポーツ分野における取組の継承・発展を図るべく策定するものです。

国や都の計画や，市の上位・関連計画との整合を図り，基本計画に掲げるスポーツ施策に基づいた事業を展開します。

図表 1　計画の位置づけ

3　計画の期間

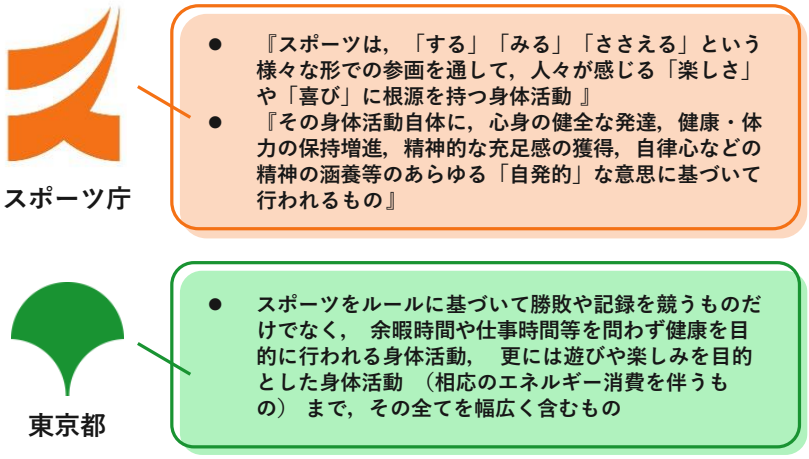
本計画は，調布市基本計画の計画期間と合わせ，令和６（2024）年度から令和 12（2030）年度までの７年間とします。



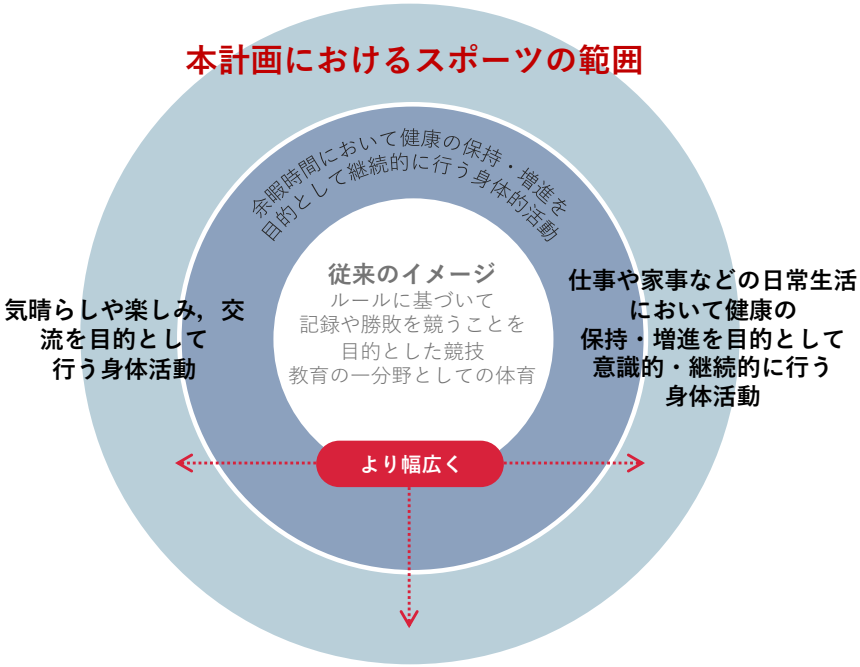
図表 2　計画期間

4　計画が対象とするスポーツの範囲

以下に示す国や都の捉え方を踏まえ，本計画では，野球やサッカー，ラグビーなどの競技種目やレクリエーション活動のほか，健康のための散歩や体操などの軽い運動，さらに徒歩や自転車による通勤や買い物などの日常生活における活動など，意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え，これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指します。



図表 3　国や都におけるスポーツの捉え方



図表 4　本計画におけるスポーツの範囲

コラム：ｅスポーツ

ｅスポーツとは，「エレクトロニック・スポーツ」の略で，広義には，電子機器を用いて行う娯楽，競技，スポーツ全般を指す言葉であり，コンピューターゲーム，ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。

＜世界的な動向＞

平成30（2018）年時点では，IOCや国際競技団体による「オリンピック・サミット」の声明において，ｅスポーツについてオリンピック種目とすることは時期尚早であり，スポーツという言葉を使うことについて更なる対話と研究が必要と表明されました。一方で同年，「アジア版オリンピック」とも言われるアジア競技大会（第18回大会）ではｅスポーツが公開競技として実施され，翌19回大会では正式種目として採用され，「FIFAOnline4（サッカーゲーム）」等７種目が設定されました。

令和3（2021）年には，IOCの公式スポーツ大会として，野球，自転車競技，ボート競技，セーリング，モータースポーツの５種目で「オリンピック・バーチャル・シリーズ」が開催されました。

＜国内での動向＞

ｅスポーツについては，現時点において様々な捉え方があります。

国民体育大会では，愛媛大会（2017年），福井大会（2018年）の文化プログラムとしてｅスポーツ大会が実施されました。また，茨城大会（2019年）以降の文化プログラムでは，都道府県対抗の形式で実施されてきており、佐賀大会（2024年）でも開催が決定しています。

また60歳以上のスポーツの祭典「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」でも鳥取大会（2024年）から，ｅスポーツとして「太鼓の達人」が正式種目となるなど，シニアスポーツへの展開もみられます。

政府としても平成30（2018）年の段階から「未来投資戦略2018[5]」において，「新たな成長領域として注目されるｅスポーツについて，健全な発展のための適切な環境整備に取り組む。」と記載しており，内閣府の知的財産戦略推進事務局が毎年まとめている「知的財産推進計画2019[6]」においても，「コンテンツ分野における新たな成長領域として注目されているｅスポーツについて，関係省庁において，制度的課題の解消など健全な発展のため適切な環境整備に必要に応じて取り組むとともに，産学官やコミュニティが連携した取組を通じコンテンツだけでなく周辺関連産業への市場の裾野の拡大や，社会的意義・波及効果について検討を行うことが必要である。」と記載されています。

その他，令和元年度には経済産業省の旗振りのもと，ｅスポーツを活性化させるための方策に関する検討会が発足し，市場の成長可能性や社会的意義について報告がなされています。

5　政府による成長戦略。未来投資戦略 2018 では，『Society5.0』『データ駆動型社会』への変革 -をテーマに掲げ，中小・小規模事業者の生産性革命のさらなる強化などといった重点分野を挙げている。

6　知財戦略を推進する際に重要となる政策課題と施策を整理している政府の計画。今後，日本において，多様なプレイヤーが世の中の知的財産の利用価値を最大限に引き出す社会の実現を目指すものとしている。

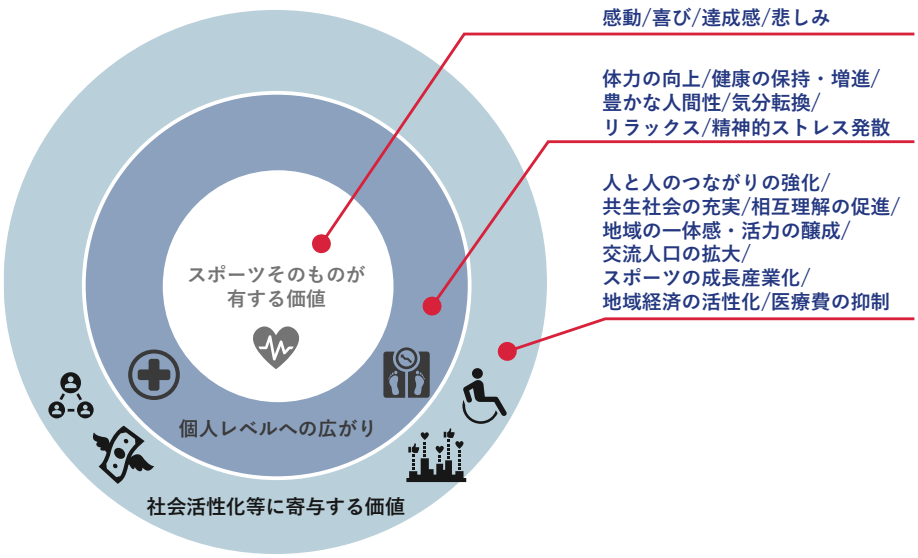
5　スポーツの力

人はスポーツを行うことによって，喜びや達成感を得たり，悲しみや挫折感を覚えたりもします。また，選手がスポーツに懸命に取り組む姿は，多くの人に感動を与えます。さらには，スポーツを「ささえる」もしくは「ささえられる」なかで，人と人との絆や思いやる心を育むことができると考えられます。このように，スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを通じて，スポーツに「自発的」に参画し，「楽しさ」や「喜び」を得ることは，人々の生活や心を豊かにする「Well-being」の考え方につながるものです。これらは，性別や年齢，国籍を問わず誰もがスポーツから直接享受できるものであり，スポーツの内在的な力，いわば「スポーツそのものが有する価値」です。こうしたスポーツの価値を原点として大切にしつつ，更に高め，生涯を通じてスポーツを「好き」でいられる環境を整えていくことが不可欠です。

さらには，『スポーツの力』はこれだけに止まらず，周囲にも波及します。スポーツを継続的に実施することで体力が向上し，市民一人一人の健康の維持・増進に寄与するとともに，スポーツを通した人と人とのつながりの強化，地域経済の活性化など，スポーツの外在的な力，いわば「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」といった側面もあります。

このように，スポーツには，市民の生活向上に重要な役割を果たす多様な力が秘められています。

市は，これらの『スポーツの力』を全ての市民が享受できるようスポーツ振興に取り組みます。



図表 5　スポーツに期待される効果

第 2 章　スポーツを取り巻く現状

1　社会情勢の変化
2　国や都の動向からみる社会潮流
3　市を取り巻く現況及び市の特徴
4　市のスポーツ推進の現状
5　計画策定の視点

1　社会情勢の変化

（1）人生 100 年時代の到来

日本人の健康寿命は世界最高水準であり，更なる延伸が予想されています。こうした背景を受け，政府は「人生 100 年時代構想会議[7]」を立ち上げ，幼少期から高齢者まで全ての人々が元気に活躍し続けることができる社会の実現を目指しています。人生 100 年時代の基盤は，一人一人の心身の健康であり，スポーツは市民の健康づくりや仲間づくりに寄与する活動として期待できます。

（2）持続可能な社会への移行

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）とは，平成 27（2015）年９月の国連サミットで採択された令和 12（2030）年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール（目標）から構成されており，スポーツは健康，教育，コミュニティ強化などに寄与するものとして期待されています。

図表 6　SDGs ロゴおよびアイコン

（3）多様性を認め合うまちの実現

「共生社会」とは，これまで必ずしも十分に社会参加できる環境のなかった障害のある方をはじめ，配慮が必要な人々が積極的に参加・貢献していくことができる社会であるとともに，誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い，人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会であり，国は，このような社会を目指すことを積極的に取り組むべき重要な課題ととらえています。

7　人生 100 年時代を見据えた経済社会システムを創り上げるための政策のグランドデザインを検討する会議。平成 29 年 9 月に設置され，9 回にわたって議論が行われた。

スポーツには，ジェンダー平等[8]をはじめとする幅広い社会課題の解決に寄与する力があると期待されています。一方で，我が国における各種競技団体の役員の女性参加は世界各国と比べると遅れており，東京 2020 大会の開催を通じて，ジェンダー平等に対する国民の関心が高まりました。

これからは，スポーツに親しむ場においても，性別，年齢，障害の有無，国籍等にかかわらず，多様性を尊重し合うことが重要です。

（４）国際スポーツ大会のレガシー

令和元（2019）年にはラグビーワールドカップ 2019 が開催され，開幕前の予想を大きく上回る盛り上がりを見せました。また，東京 2020 大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により，開催が１年延期となりましたが，安全・安心に大会が開催されました。

このような国際スポーツ大会を契機に実施したパブリックビューイングやホストタウン交流[9]，スポーツに対する機運の高まりなど，レガシーを生かした取組が求められます。

（５）デジタル技術革新の進展

現在，ＩＣＴ[10]，ＡＩ[11]（人工知能），ＶＲ[12]（仮想現実）・ＡＲ[13]（拡張現実）などの技術開発が急速に進展しています。これらの技術は，新しい産業の創出・発展や企業の生産性向上のみならず，人々の働き方やライフスタイル，健康管理，教育など，市民の生活に関わるあらゆる分野での活用が期待されます。スポーツ分野においても，個人・法人を問わないトレーニング動画のオンライン配信や，ＶＲ・ＡＲを活用した新たなスポーツなど，多様な楽しみ方の創出が期待できます。

8　ひとりひとりの人間が，性別にかかわらず，平等に責任や権利や機会を分かちあい，あらゆる物事を一緒に決めることができること。

9　ホストタウンとは，東京 2020 大会に向けて，地域の活性化や観光振興などの観点から，参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を国が登録する制度。ホストタウンとして登録された自治体は，住民と来日した選手らがスポーツ・文化などの様々な事業を通じて交流を行っている。調布市は，サウジアラビア王国のホストタウンとして，2016 年 1 月 26 日に登録された。

10　Information and Communication Technology の略。情報や通信に関する技術の総称。

11　Artificial Intelligence の（人工知能）略称。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム，あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術といった広い概念で理解されている。

12　Virtual Reality の略で，コンピュータによって創り出された仮想的な空間などを現実であるかのように疑似体験できる技術。仮想現実。主に VR ヘッドセットを装着することで視覚的に現実世界を遮断し，デジタル上に再現された仮想空間をまるでその場にいるように体感できる技術を指す。

13　Augmented Reality の略で，現実世界にデジタル情報を付加する技術。拡張現実。主にスマートフォンやスマートグラスを通し，目で見ている光景に CG 映像などが合成されあたかも実存するように見える技術を指す。

2　国や都の動向からみる社会潮流

（1）国の潮流

第１期計画が策定された平成 24（2012）年度以降，スポーツ庁の新設と，それに伴う障害者スポーツの厚生労働省からの移管，第２期スポーツ基本計画の策定など，新たなスポーツ政策が次々に展開されてきました。また，第２期計画が策定された平成 29（2017）年度以降も，ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 大会等の国際的なスポーツ大会の開催，日本体育協会から日本スポーツ協会への名称変更など，スポーツに対する機運の醸成やパラダイムシフト（認識の変化）が生じています。また，新型コロナウイルス感染症の拡大は，心身の健康づくりや人と人とのつながりの重要性を改めて認識するきっかけとなりました。

このような社会情勢の変化を受けて，スポーツを推進する意義や目的は，従来から認識されてきた心身の健康づくりや人格形成，競技力向上という枠を超え，人々の暮らしをより豊かにするもの，地域コミュニティの形成や共生社会を育むこと，地域経済の活性化に寄与するものとして考えられるようになってきています。そのため，スポーツは個人と地域のどちらの視点においても，ますます欠かせない存在となっています。

このように，東京 2020 大会の基本コンセプトの一つとなった多様性と調和や，共生社会への関心が一層広まる中，令和３（2021）年度に策定された第３期スポーツ基本計画では，スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため，次の３つの視点が必要になるとされています。

① 社会の変化や状況に応じて，既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するというスポーツを『つくる／はぐくむ』という視点

② 様々な立場・背景・特性を有した人・組織が『あつまり』，『ともに』活動し，『つながり』を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点

③ 性別，年齢，障害の有無，経済的事情，地域事情等にかかわらず，全ての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指すという視点

図表 7　第３期スポーツ基本計画における新たな視点

変化・充実しつつあるスポーツの意義を踏まえつつ，持続可能な社会の実現を目指すべく，社会情勢の変化を的確に捉え，スポーツを推進していくことが求められています。

第２期計画期間中の総括：

新型コロナウイルス感染症	▶	感染拡大により，スポーツ活動が制限
東京オリンピック・ パラリンピック競技大会	▶	１年延期後，原則無観客の中で開催
その他社会状況の変化	▶ ▶ ▶ ▶ ▶	人口減少・高齢化の進行 地域間格差の広がり ＤＸなど急速な技術革新 ライフスタイルの変化 持続可能な社会や共生社会への移行

こうした出来事等を通じて，改めて確認された

- 「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『スポーツそのものが有する価値』（Well-being）
- スポーツを通じた地域活性化，健康増進による健康長寿社会の実現，経済発展，国際理解の促進など『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』

を更に高める

第３期計画：新たな３つの視点

スポーツを**「つくる/はぐくむ」**
スポーツで**「あつまり，ともに，つながる」**
スポーツに**「誰もがアクセスできる」**

第３期計画：総合的かつ計画的に取り組む 12 の施策

① 多様な主体におけるスポーツの機会創出
② スポーツ界におけるＤＸの推進
③ 国際競技力の向上
④ スポーツの国際交流・協力
⑤ スポーツによる健康増進
⑥ スポーツの成長産業化
⑦ スポーツによる地方創生，まちづくり
⑧ スポーツを通じた共生社会の実現
⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
⑩ スポーツ推進のためのハード，ソフト，人材
⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保
⑫ スポーツ・インテグリティ[14](高潔性)の確保

図表 8 第３期スポーツ基本計画の概要

14 高潔さ・品位・完全な状態を意味する言葉。 スポーツにおける「インテグリティ」とは，「スポーツが様々な脅威により欠けるところなく，価値ある高潔な状態」を指す。

（２）都の潮流

スポーツを通じて東京の未来を創造していくための羅針盤として「東京都スポーツ推進総合計画」が平成 30（2018）年３月に策定され，「スポーツの力で東京の未来を創る」の基本理念と，以下３つの政策目標が掲げられています。

また，東京 2020 大会を通じて人々のスポーツに対する関心が高まったこの機会を捉え，スポーツを東京に一層根づかせるため，「ＴＯＫＹＯスポーツレガシービジョン」が令和４（2022）年１月に公表されました。この中では，味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザなど都立スポーツ施設の活用が示されており，令和５（2023）年３月にはパラスポーツの競技力向上の拠点及び障害のある人もない人もパラスポーツに親しむことのできる普及振興の場として「東京都パラスポーツトレーニングセンター」が味の素スタジアム内に開所されました。

令和７（2025）年には，「世界陸上競技選手権大会」及び「デフリンピック」といった国際スポーツ大会が東京で開催されます。東京 2020 大会のレガシーを引き継ぎ，新しいフィールドを広げるべく，両大会を通じ，スポーツの力によって東京の未来を創るため，令和５（2023）年２月に「ビジョン 2025」が策定されました。「ビジョン 2025」では，“みんながつながる”，“世界の人々が出会う”，“こどもたちが夢をみる”，“未来へつなぐ”，“みんなで創る”の５つの柱と，基本的な方針として「スポーツで新しいフィールドを広げ，　全ての人が輝くインクルーシブ[15]な街・東京へ」を掲げています。

スポーツ推進総合計画：

健康寿命の達成	共生社会の実現	地域・経済の活性化

ＴＯＫＹＯスポーツレガシービジョン：

▶ 都立スポーツ施設の戦略的活用

【市内立地施設の位置づけ】	
武蔵野の森 総合スポーツプラザ	多摩のスポーツ拠点としての更なる活用 （大規模大会誘致，大会レガシーの活用など） エンタメなど多様な利用の促進 （コンサート，ダンス競技大会など）
味の素 スタジアム	スポーツとエンターテインメントによる更なる活用促進 （サッカーと音楽イベントの同時開催など） 地域と連携した施策の展開 （周辺施設と連携したウォーキングイベントなど）

▶ 国際スポーツ大会の誘致・開催
▶ スポーツの場を東京の至る所に拡大
▶ パラスポーツの振興
▶ 東京のアスリートの活躍
▶ ボランティア文化の定着
▶ 未来へのメッセージ

図表 9 東京都のスポーツ関連計画

15 「すべてを包括する，包みこむ」こと。障がいの有無や国籍，年齢，性別などに関係なく，違いを認め合い，共生していくことを目指す社会をインクルーシブ社会という。

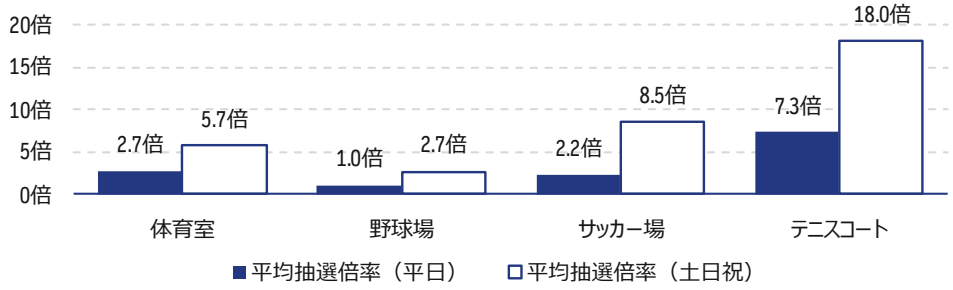
3　市を取り巻く現況及び市の特徴

（1）スポーツをする場

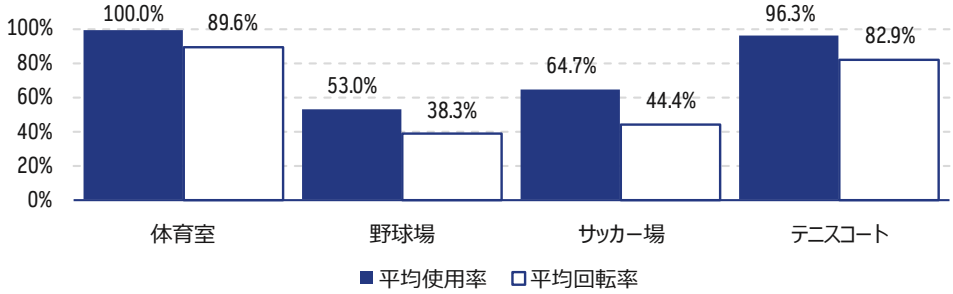
ア　公共スポーツ施設

市内には，屋内・屋外の様々な公共スポーツ施設があります。また，市の西部には，都立施設である味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザなどがあり，多摩地域の一大スポーツ拠点となっています。

市立スポーツ施設の室場別平均抽選倍率は，土日祝日が高く，特にテニスコートの倍率が高い傾向にあります。また，使用率は，体育室やテニスコートが高い傾向となっています。



図表 10　主な市立スポーツ施設の室場別抽選倍率（令和４年度）

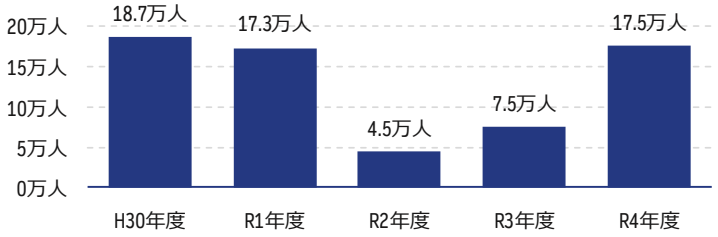


図表 11　主な市立スポーツ施設の室場別稼働率（令和４年度）[16]

16 使用率は，使用日数÷使用可能日数で計算，回転率は，使用回数÷使用可能回数で計算。

イ　学校施設

市は，社会教育及び社会体育の振興，普及を進めながら健康の増進を図ることを目的に，学校施設の開放を行っています。



図表 12　学校施設開放延べ利用者数の推移（体育館及び校庭）[17]

（2）スポーツを支える担い手

ア　スポーツ推進委員

調布市スポーツ推進委員は，地域のスポーツ推進を担う非常勤の公務員であり，住民に対するスポーツの実技の指導や助言を行うだけでなく，スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整やスポーツ推進のために必要な指導・助言を行う，地域スポーツ振興のコーディネーターとも言える存在です。

調布市スポーツ推進委員会は，現在，小学校区から 20 人，調布市レクリエーション研究会から１人の計 21 人で構成されており，市のスポーツ事業への協力だけでなく，地域住民と連携し，地域に根差したスポーツ・レクリエーション振興事業を展開しており，市のスポーツ行政の推進者として重要な役割を担っています。

イ　調布市スポーツ協会

公益社団法人調布市スポーツ協会は，調布市における体育・スポーツの振興を目的とした，各種イベント・大会，教室など，地域スポーツの場や機会の提供，パラスポーツの普及啓発，スポーツ指導者やスポーツボランティアの養成と活用，また指定管理者として総合体育館の管理・運営などを行っています。

平成４年に前身の「社団法人調布市体育協会」が設立され，平成 24 年に公益認定を受け，公益社団法人へ移行，令和５年に「調布市体育協会」から「調布市スポーツ協会」に名称変更しました。

現在，同協会には競技団体 33 団体，さらに各競技団体に計 438 団体が加盟し，会員数は計 9,900 人（令和６年３月現在）となっています。

17 1000 人未満は四捨五入処理。

ウ　総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは，多種目，多世代，自主運営を特徴とした地域住民による自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

市内唯一の総合型地域スポーツクラブである「調和ＳＨＣ倶楽部」は，だれもが，いつでも，どこでも気軽にスポーツを楽しみ，また健康な体力つくりや，文化的な趣味を増やしながら地域の一人一人の力によって創り上げる総合型地域スポーツ・文化クラブとして，平成 14（2002）年９月に設立されました。平成 15 年には「特定非営利活動法人（ＮＰＯ）」認証を受け，子どもからお年寄りまで，みんなの笑顔が広がる魅力あるクラブを目指して活動を展開しています。

エ　スポーツボランティア

平成 25（2013）年度のスポーツ祭東京 2013（第 68 回国民体育大会・第 13 回全国障害者スポーツ大会）を契機として，調布市スポーツ協会が「調布市スポーツボランティア」を立ち上げ，スポーツを「ささえる」人材の育成，活動の普及を目指し，市内で開催される市民スポーツまつりや市民駅伝競走大会などのスポーツイベント等での活動機会の提供を行っています。

令和５（2023）年度には，ボランティア制度をリニューアルするとともに，THE ROAD RACE TOKYO TAMA 2023[18]（多摩地域で開催された自転車ロードレース（主催：GRAND CYCLE TOKYO 実行委員会，共催：東京都））におけるボランティア募集を契機として登録者も増加しており，より多くの方がボランティア活動に関われるよう，支援しています。

コラム：東京 2020 大会に向けた「調布市おもてなしボランティア」

東京 2020 大会では，組織委員会が運営主体となる大会ボランティアと東京都が運営主体となる都市ボランティアがありました。市は，両者が運営主体となるボランティアとは別に，市独自の「調布市おもてなしボランティア」を募集し，延べ約 400 人から応募がありました。おもてなしボランティアは，ラグビーワールドカップ 2019 期間中ファンゾーン周辺での取組など，大会を契機とした様々な場面で活動しました。新型コロナウイルス感染症の影響により，東京 2020 大会本番での活動は中止となりましたが，ラグビーワールドカップ 2019 等での活動の経験を生かし，スポーツボランティアを含め，地域のボランティア活動の継続に向けた支援を行いました。

ラグビーワールドカップ 2019
での活動の様子(通訳補助)

18　2023 年 12 月 3 日に開催された東京都主催の自転車ロードレース大会。八王子市の富士森公園をスタートし，武蔵野の森公園前スタジアム通り（調布市）をゴールとするコースが設定された。また，パラサイクリングでは，武蔵野の森公園周辺に周回コースが設けられた。

（３）スポーツによるにぎわいの創出

ア　トップスポーツチーム等との連携

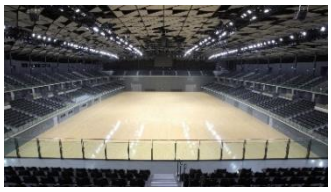
ＦＣ東京や東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，読売巨人軍，ＮＴＴ東日本バドミントン部など，トップスポーツチーム等と連携を図りながら，「する」「みる」「ささえる」の視点に基づいた，市民がスポーツに親しめる機会の充実や環境づくりを推進しています。

ＦＣ東京（サッカー）	東芝ブレイブルーパス東京（ラグビー）	東京サントリーサンゴリアス（ラグビー）	NTT 東日本バドミントン部	読売巨人軍（野球）	日本車いすバスケットボール連盟

図表 13　市ゆかりのトップスポーツチーム等

イ　多摩地域の一大スポーツ拠点

市の西部には，味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザ，調布基地跡地運動広場があり，多摩地域の一大スポーツ拠点を形成し，多摩地域のスポーツ振興に寄与しています。また，当該エリアは競技大会や地域スポーツの拠点，大規模イベントの会場として，地域の活性化やスポーツを通じたまちづくりの中核を担っています。



（左：味の素スタジアム，中：武蔵野の森総合スポーツプラザ，右：調布基地跡地運動広場）

図表 14　多摩地域の一大スポーツ拠点

ウ　大型スポーツイベントの開催

令和元（2019）年のラグビーワールドカップ 2019 では，東京スタジアム（味の素スタジアム）で開会式，開幕戦を含む８試合が行われ，約 38 万人が来場しました。また，調布駅前広場周辺で開催されたファンゾーン（東京都主催）には，16 日間で延べ 13 万人が訪れました。大会を契機として，ラグビーを通じたスポーツ振興をはじめ，地域経済の活性化，青少年の健全育成等の多岐にわたる分野において実践した取組を後世に残すべく，令和３（2021）年４月に東芝ブレイブルーパス（現：東芝ブレイブルーパス東京），サントリーサンゴリアス（現：東京サントリーサンゴリアス），調布市，府中市，三鷹市の５者による連携協定を締結し，地域一体となってラグビー競技の普及に取り組んでいます。

１年延期となった東京 2020 大会では，市内の３つの競技会場（東京スタジアム（味

の素スタジアム），武蔵野の森総合スポーツプラザ[19]，都立武蔵野の森公園）において，６競技が開催され，その後，これらの競技会場を含むエリアについては，大会開催を象徴する場所として「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク[20]」と名付けられ，大会の感動と記憶を後世に永く伝えられることになりました。大会を契機とした有形・無形のレガシー創出のため，これまで展開してきたソフト・ハード両面にわたる取組については，一過性のものとせず，大会のレガシーとして継承・発展させていく必要があります。

今後も，市内で開催される国際的・全国的なスポーツ大会や，トップスポーツチームの試合を契機とした市民スポーツの振興はもとより，スポーツによるまちのにぎわい創出を図っていきます。

＜味の素スタジアム＞

年	イベント
2002	ＦＩＦＡワールドカップ 2002（サッカー） ※サウジアラビア王国公認キャンプ地
2003	アテネオリンピック・アジア２次予選（サッカー）
2004	Ｕ－23 国際親善試合（サッカー）
2010	東アジアサッカー選手権 2010 決勝大会
2012	AFC チャンピオンズリーグ 2012（サッカー）
2013	第 97 回日本陸上競技選手権大会 （兼 2013 年世界陸上競技選手権大会モスクワ大会日本代表選考会）
2013	スポーツ祭東京 2013
2016	第 95 回天皇杯全日本サッカー選手権大会決勝
2016	リポビタンＤチャレンジカップ 2016（ラグビー）
2016	AFC チャンピオンズリーグ 2016（サッカー）
2017	キリンチャレンジカップ 2017（サッカー）
2017	リポビタンＤチャレンジカップ 2017（ラグビー）
2017	ＥＡＦＦ　Ｅ－１サッカー選手権 2017 決勝大会
2018	リポビタンＤチャレンジカップ 2018（ラグビー）
2019	ラグビーワールドカップ 2019 日本大会
2020	AFC チャンピオンズリーグ 2020（サッカー）
2021	ＳＡＩＳＯＮ　ＣＡＲＤ　ＣＵＰ2021（サッカー（Ｕ－24））
2021	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会

図表 15　過去に味の素スタジアム（東京スタジアム）で開催された主な国際・国内スポーツ大会[21]

19 武蔵野の森総合スポーツプラザは平成 29（2017）年開場。

20 競技会場等となった施設と公園を一体的なエリアと捉え，東京 2020 大会の開催を象徴する 2 つのエリアに「オリンピック・パラリンピックパーク」の名称がレガシーとして付与されている。（武蔵野の森公園，武蔵野の森総合スポーツプラザ，東京スタジアムを含むエリア：「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク」，有明親水海浜公園，有明アーバンスポーツパーク，有明アリーナ，有明体操競技場を含むエリア：「有明オリンピック・パラリンピックパーク」）

21 その他，通年でサッカーＪリーグやラグビーリーグワンの試合が開催されている。

＜武蔵野の森総合スポーツプラザ＞

年	イベント
2017	全日本フィギュアスケート選手権大会
2018	天皇杯第 46 回日本車いすバスケットボール選手権大会
2018	三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP2018（車いすバスケットボール）
2018	ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン 2018（バドミントン）
2018	楽天・ジャパン・オープン・テニスチャンピオンシップス 2018
2018	極真会館　第 50 回オープントーナメント　全日本空手道選手権大会
2018	第 18 回全日本チアダンス選手権大会
2018	平成 30 年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会
2018	SoftBank ウインターカップ 2018 第 71 回全国高等学校バスケットボール選手権大会
2019	第 32 回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会 2019
2019	2019 体操ワールドカップ東京大会
2019	FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019 男子東京大会
2019	UIPM2019 近代五種ワールドカップファイナル東京大会
2019	ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン 2019　バドミントン選手権大会
2019	三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP2019（車いすバスケットボール）
2019	春の高校バレー　第 71 回全日本バレーボール高等学校選手権大会
2019	V.LEAGUE FINAL（バレーボール）
2019	第 58 回 NHK 杯体　第 49 回世界体操競技選手権大会日本代表決定競技会
2019	天皇杯第 47 回日本車いすバスケットボール選手権大会
2019	第 37 回全日本バウンドテニス選手権大会
2019	内閣総理大臣杯　第 62 回全国空手道選手権大会
2019	第 12 回オープントーナメント全世界空手道選手権大会
2019	第 19 回全日本チアダンス選手権大会
2019	SoftBank ウインターカップ 2019 第 72 回全国高等学校バスケットボール選手権大会
2020	春の高校バレー　第 72 回全日本バレーボール高等学校選手権大会
2020	第 52 回全日本・2020 全日本女子大会（極真空手）
2020	令和 2 年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会
2020	SoftBank ウインターカップ 202 令和 2 年度 第 73 回 全国高等学校バスケットボール選手権大会
2020	第 18 回全日本学生チアダンス選手権大会
2020	第 20 回全日本チアダンス選手権大会
2021	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会
2021	ジュニアウインターカップ 2020-2021 第 1 回全国 U15 バスケットボール選手権大会
2021	第 19 回全日本学生チアダンス選手権大会
2021	第 21 回全日本チアダンス選手権大会
2021	内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯争奪 令和３年度第 75 回全日本総合バドミントン選手権大会
2022	ジュニアウインターカップ 2021-2022 第 2 回全国 U15 バスケットボール選手権大会
2022	第 46 回　日本ハンドボールリーグ　プレーオフ
2022	内閣総理大臣杯　第 64 回全国空手道選手権大会
2022	第 22 回　全日本少年少女空手道選手権大会
2022	令和 4 年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会
2022	2022 ジャパンオープンチアリーディング選手権大会

年	イベント
2022	2022 日本学生チアリーディング選手権大会
2022	公益財団法人日本バドミントン協会創立 75 周年記念事業 令和４年度第 76 回全日本総合バドミントン選手権大会
2023	ジュニアウインターカップ 2022-2023 第 3 回全国 U15 バスケットボール選手権大会
2023	第 2 回　全日本青少年フルコンタクト空手道選手権大会
2023	第 47 回　日本ハンドボールリーグ　プレーオフ
2023	W リーグプレーオフセミファイナル・ファイナル
2023	内閣総理大臣杯　第 65 回全国空手道選手権大会
2023	JFA バーモントカップ 第 33 回全日本 U-12 フットサル選手権大会
2023	第 28 回全国私立高等学校選抜バドミントン大会
2023	第 76 回全日本新体操選手権大会
2023	令和 5 年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会
2023	SoftBank ウインターカップ 202 第 76 回全国高等学校バスケットボール選手権大会
2023	内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯争奪 令和５年度第 77 回全日本総合バドミントン選手権大会
2024	京王 Jr.ウインターカップ 2023 -2024 第 4 回全国 U15 バスケットボール選手権大会
2024	JOC ジュニアオリンピックカップ大会/ 第 10 回 全日本中学校チアリーディング選手権大会
2024	JOC ジュニアオリンピックカップ大会/ 第 34 回 全日本高等学校チアリーディング選手権大会

図表 16　過去に武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された主な国際・国内スポーツ大会

エ　スポーツを通じた共生社会の充実

東京 2020 パラリンピックを契機として，「パラハートちょうふ　つなげよう，ひろげよう，共に生きるまち」のキャッチフレーズを掲げ，子どもたちへのパラリンピック教育の実施や，パラスポーツに親しむ機会の創出，「調布市障害者スポーツの振興における協議体」における当事者の運動機会の創出に向けた取組など，共生社会の充実に向けて取り組んでいます。

パラハート
ちょうふ

つなげよう，ひろげよう，
共に生きるまち

図表 17　パラハートちょうふロゴ

オ　市をあげてスポーツを応援する土壌

調布市応援アスリートとして令和６（2024）年３月現在，15 人のアスリートを認定し，市をあげて応援することで，アスリートの更なる飛躍を期待するとともに，市民のスポーツへの関心を高め，スポーツ振興へとつなげています。

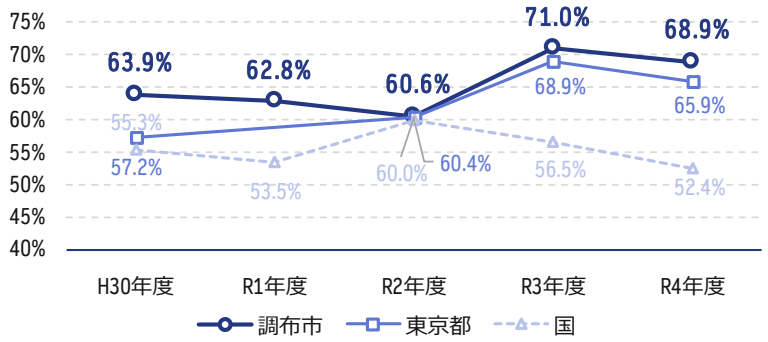
4　市のスポーツ推進の現状

令和４（2022）年度に実施した「調布市民のスポーツ活動に関する実態調査[22]」の結果等を踏まえ，市のスポーツ推進の現状を整理します。

（1）「する」スポーツについて

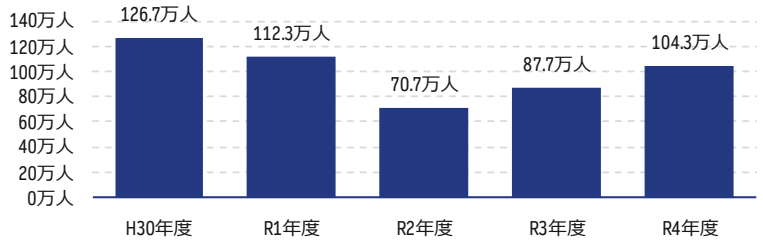
週に１回以上スポーツをする市民の割合（スポーツ実施率）は，平成 30（2018）年度には 63.9%でしたが，新型コロナウイルス感染症が感染拡大した令和２（2020）年度には 60.6%に低下したものの，その後は回復し，コロナ禍前よりも高い水準となっています。

一方，市立スポーツ施設の利用者数について，平成 30（2018）年度は 120 万人を超える状況でしたが，新型コロナウイルス感染症の影響により，令和２（2020）年度は約 70 万人に減少しました。その後，利用者数は徐々に回復しつつあり，令和４（2022）年度には約 104.3 万人となっています。



図表 18　週１回以上スポーツをする人の割合の推移（国・都比較）

出典：調布市市民意識調査（調布市）[23]/都民のスポーツ活動に関する実態調査（東京都）/スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）

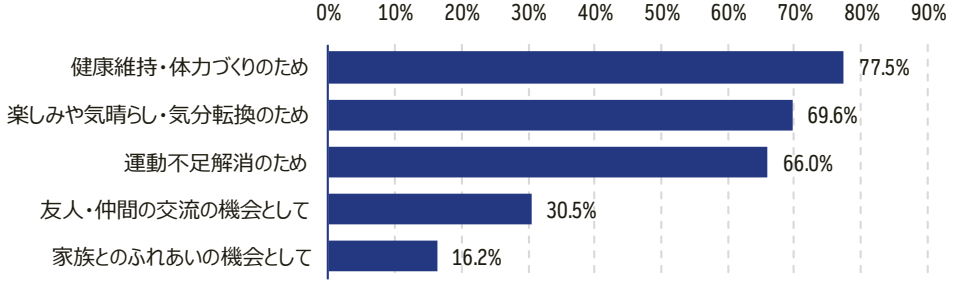


図表 19　市スポーツ施設利用者数（学校施設開放含む）の推移

22 市民のスポーツ活動に関するニーズや実態を把握するとともに，市のスポーツ振興事業を推進していくための基礎資料とするために実施した調査。
実施時期：令和 4 年 12 月 5 日(月)～令和 5 年 1 月 10 日(火)
対象：無作為抽出による 16 歳以上の市民約 3,000 人

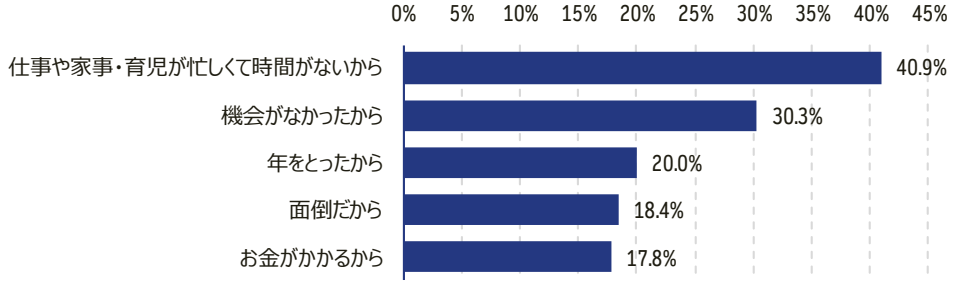
23 経年での推移を把握するため，令和４年度に実施した「調布市民のスポーツ活動に関する実態調査」での数値ではなく，毎年実施している「調布市民意識調査」の数値を活用

スポーツを実施した理由として，「健康維持・体力づくりのため」が 77.5%，「楽しみや気晴らし・気分転換のため」が 69.6%となっています。一方，スポーツを実施しなかった理由は，「仕事や家事・育児が忙しくて時間がないから」が 40.9%，「機会がなかったから」が 30.3%となっています。



図表 20　スポーツの実施理由上位５項目（n=794）

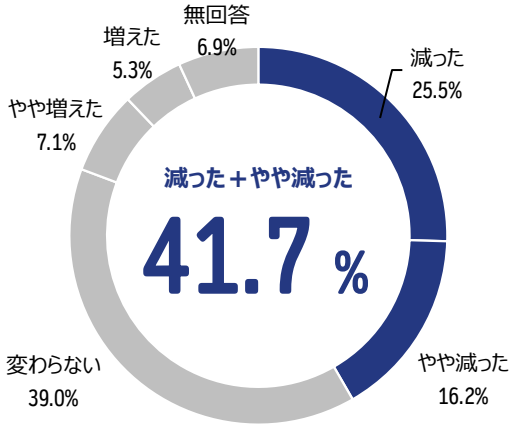
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）



図表 21　スポーツを実施しなかった理由上位５項目（n=320）

出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

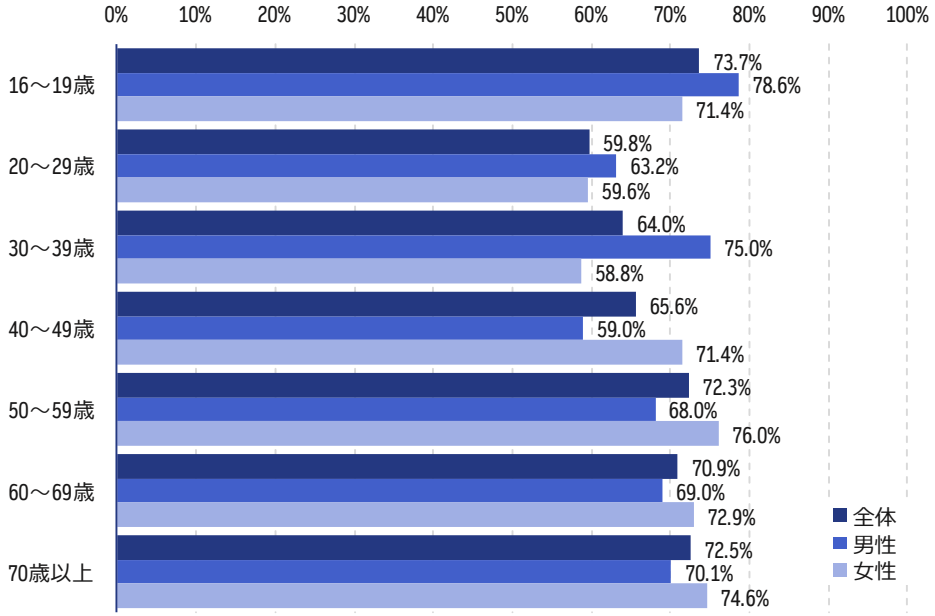
また,新型コロナウイルス感染症の影響により，運動・スポーツをする回数が「減った・やや減った」人が 41.7%（「減った」が 25.5%，「やや減った」が 16.2%）となっています。



図表 22　新型コロナウイルス感染症の影響によるスポーツ実施頻度の変化（n=1,178）
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

年代別では，週 1 回以上スポーツを実施している人の割合は，10 歳代が 73.7%と比較的高い割合となっているものの，20 歳代から 40 歳代が相対的に低い傾向にあります。一方，20 歳代以降は年代を重ねるごとにスポーツを実施している人の割合が増え，50 歳代以降は 70%を超える状況となっています。

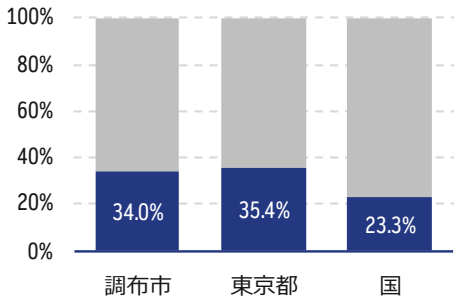
また，30 歳代までは男性のほうが実施率の高い傾向が続きますが、40 歳代で逆転し、以降は女性のほうが高い実施率となります。



図表 23　（性･年代別）週 1 回以上スポーツを実施している人の割合（n=1,181）
出典：調布市民意識調査（調布市）結果より作成

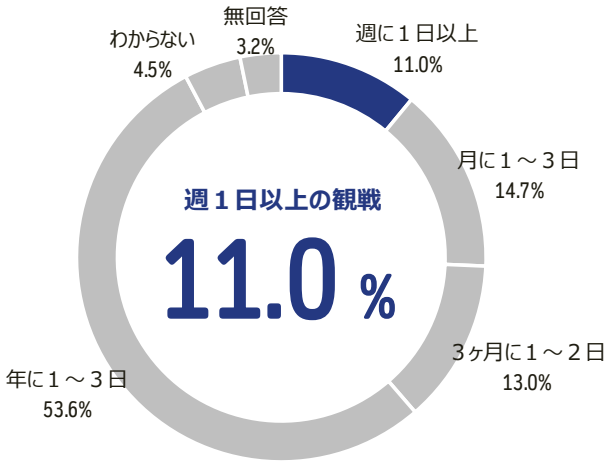
（２）「みる」スポーツについて

１年間で現地でのスポーツを観戦したことがある人は 34.0%（「なし・わからない」と「無回答」を除いた割合）であり，国や都と比較すると，35.4%の東京都とほぼ同じ割合となっています。



図表 24　この１年間の現地でのスポーツ観戦有無
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）/
都民のスポーツ活動に関する実態調査（東京都）24/
スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）25

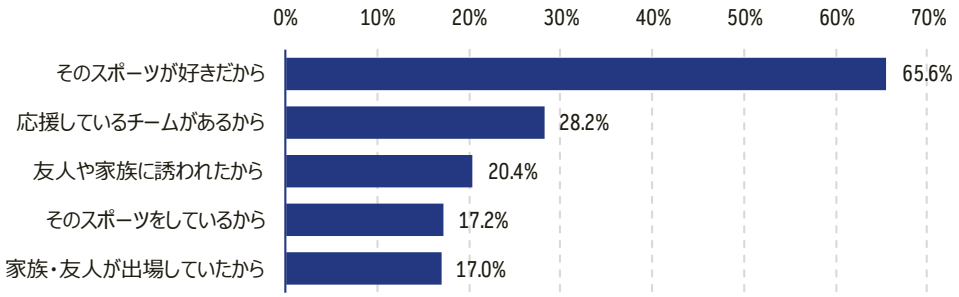
スポーツを観戦した人のうち週に１日以上スポーツ観戦をした人は 11.0%（「週に２日」が 4.7%，「週に１日」が 3.0%など）となっています。



図表 25　この１年間のスポーツ観戦頻度（n=401）
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

24 都民のスポーツ活動に関する実態調査（令和４年１０月）『問５　あなたは，この１年間にスタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。観戦したスポーツをお選びください。』における「観戦しなかった」61.5%，「わからない」0.7%以外（「無回答」2.5%も除く）。端数処理の関係で合計しても 100%にならない。
25 スポーツの実施状況等に関する世論調査（令和４年１２月調査）『Q35　あなたは，この１年間にどんなスポーツを観戦しましたか。』における「直接現地で」，「28　みなかった」76.7%以外。

スポーツを観戦した理由は，「そのスポーツが好きだから」が 65.6%，「応援しているチームがあるから」が 28.2%となっています。



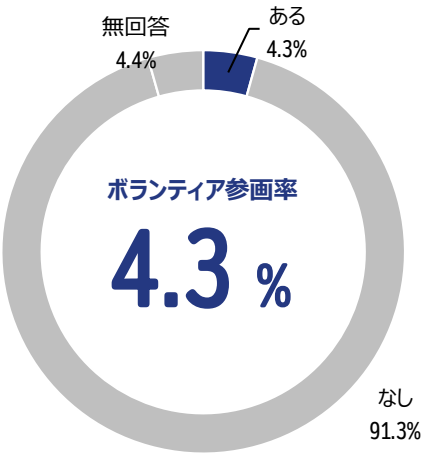
図表 26 スポーツ観戦の理由上位５項目（n=401）

出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

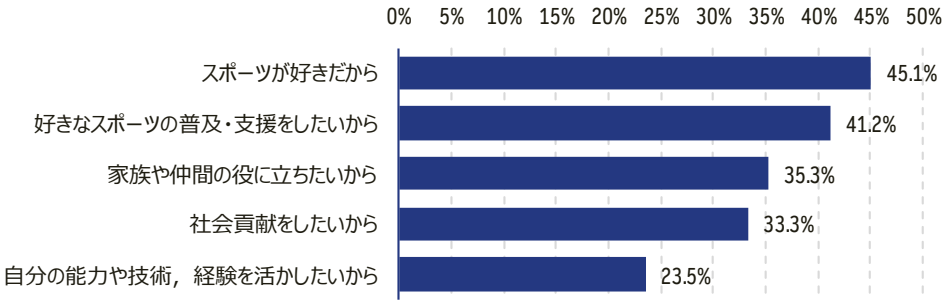
（3）「ささえる」スポーツについて

この１年間でボランティアを行った人は 4.3%であり，ボランティアを行ったことがない人は 91.3%となっています。

ボランティアを行った理由として，「スポーツが好きだから」が 45.1%，「好きなスポーツの普及・支援をしたいから」が 41.2%となっています。

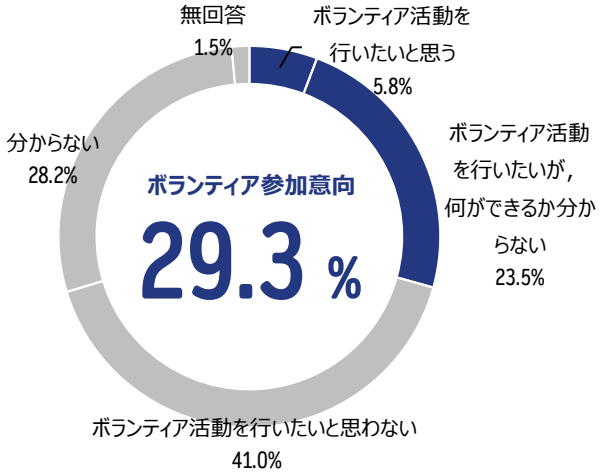


図表 27　この１年間のボランティア活動の有無(n=1,178)
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）



図表 28　スポーツボランティア参画の理由上位５項目 (n=51)
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

今後のボランティア活動への参加意向は，意向ありが 29.3%（「ボランティアを行いたいと思う」が 5.8%「ボランティア活動を行いたいが，何ができるか分からない」が 23.5%），「ボランティア活動を行いたいと思わない」が 41.0%となっています。

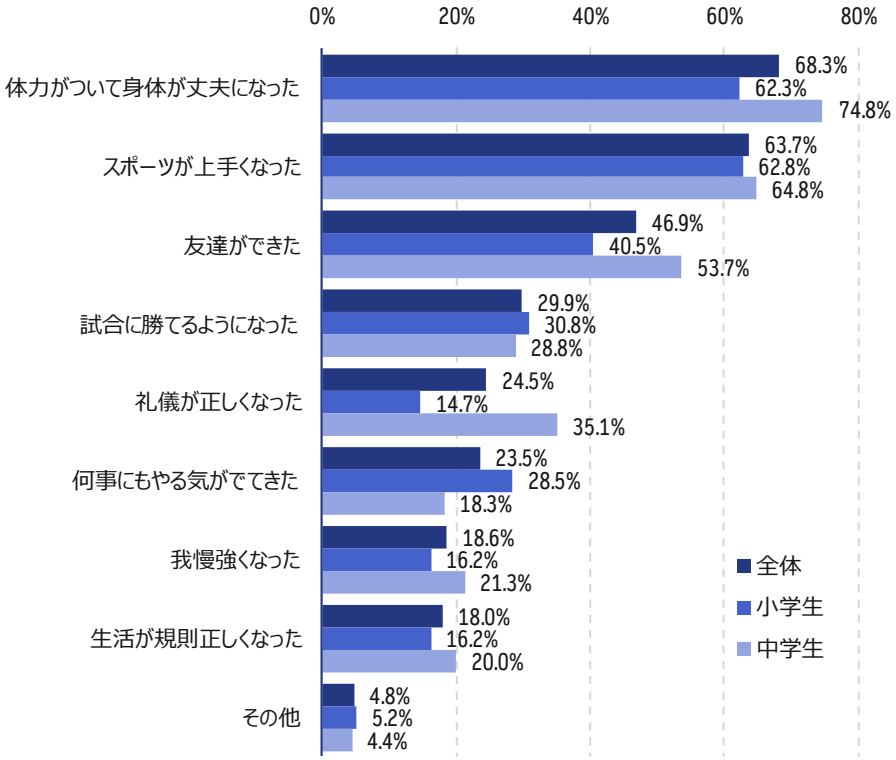


図表 29　今後のボランティア参加意向(n=1,175)

出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

（4）子どものスポーツについて

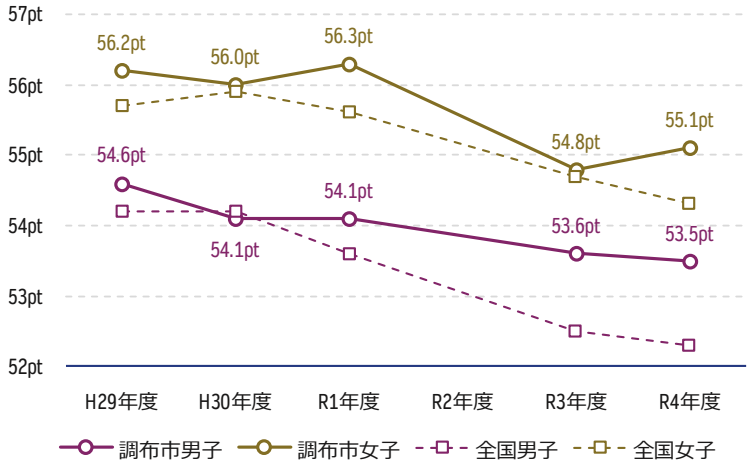
普段，体育の授業以外で週１回以上運動・スポーツを実施する子どもは 84.8%（小学生 89.3%，中学生 80.6%）となっています。運動・スポーツをやってよかったことは「体力がついて身体が丈夫になった」が 68.3%，「スポーツが上手くなった」が 63.7%となっています。小学生，中学生とも上位２項目は同じですが，中学生では「体力がついて身体が丈夫になった」が多くなっています。



図表 30　運動・スポーツをやってよかったこと(n=2,204)

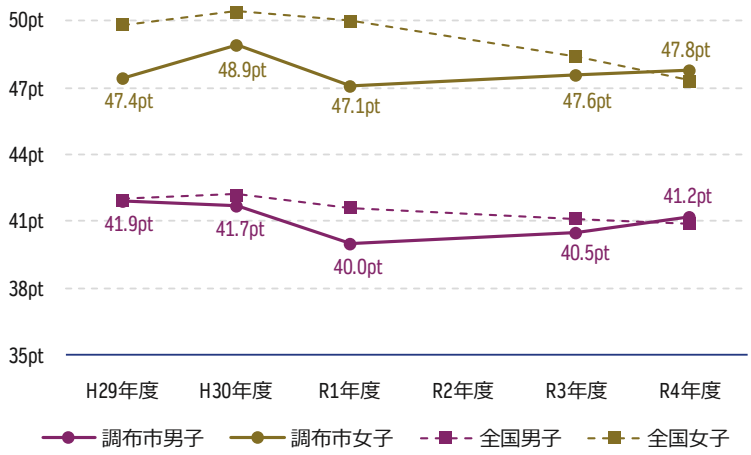
出典：調布市小・中学生のスポーツ活動調査結果報告書（調布市）

子どもの体力・運動能力について，体力テスト（体力・運動能力・運動習慣等の調査）の合計点をみると，小学生はコロナ禍による減少後，コロナ禍以前の水準には回復できていない傾向にありますが，中学生は男女ともに概ね横ばいに推移しています。また、いずれの属性においても，直近値で全国平均を上回っています。とりわけ中学生は，全国的にコロナ禍の影響を受ける中で微増を続け，令和４（2022）年度には全国平均を上回る形となりました。（国の調査に合わせ，小学校５年生、中学校２年生で比較）



図表 31　小学生体力合計点の推移

出典：体力・運動能力・運動習慣等の調査（東京都）より作成/
全国体力・運動能力，運動習慣等調査（スポーツ庁）より作成



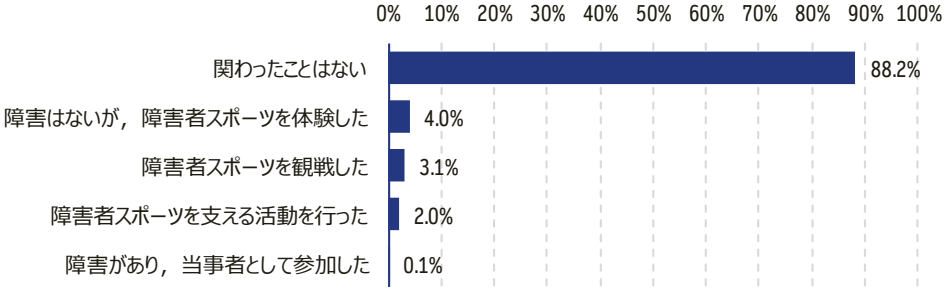
図表 32　中学生体力合計点の推移

出典：体力・運動能力・運動習慣等の調査（東京都）より作成/
全国体力・運動能力，運動習慣等調査（スポーツ庁）より作成

（5）障害者スポーツ（パラスポーツ）について

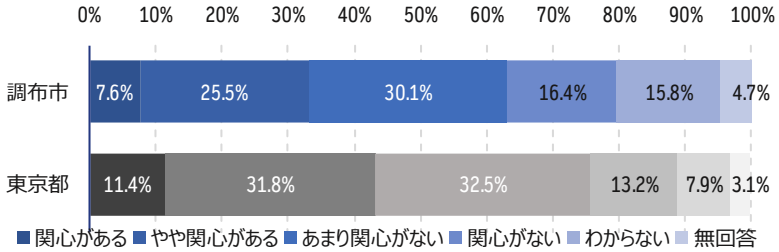
障害者スポーツに関わったことがない人が 88.2%となっています。

障害者スポーツに「関心がある・やや関心がある」人は 33.1%，「あまり関心がない・関心がない」人は 46.5%となっています。



図表 33　障害者スポーツへの関わり(n=1,178)

出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

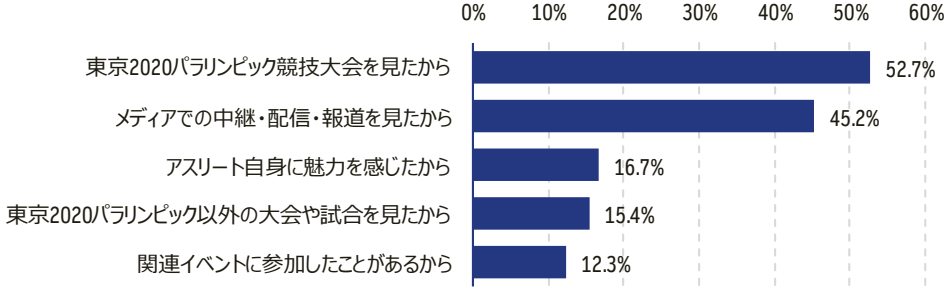


図表 34　障害者スポーツへの関心の有無

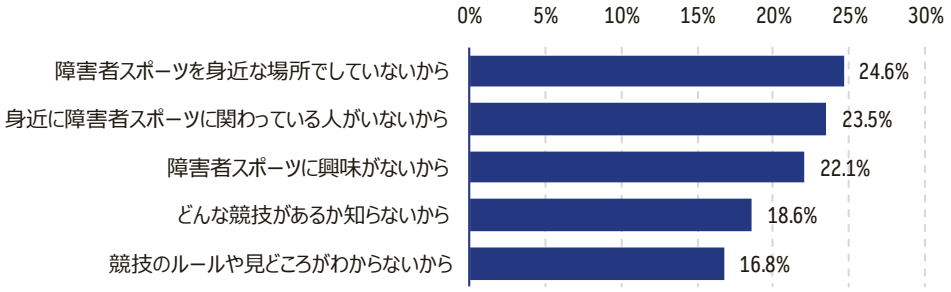
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）/
都民のスポーツ活動に関する実態調査（東京都）

障害者スポーツに関心をもったきっかけは，「東京 2020 パラリンピック競技大会を見たから」が 52.7%，「テレビやインターネットなど，メディアでの中継・配信・報道をみたから」が 45.2%となっています。

障害者スポーツに関心がない理由は，「障害者スポーツを身近な場所でしていないから」が 24.6%，「身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから」が 23.5%となっています。



図表 35　障害者スポーツへ関心を持ったきっかけ上位５項目(n=389)
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）



図表 36　障害者スポーツに関心がない理由上位５項目(n=548)
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

5　計画策定の視点

視点１

世界最大級のスポーツイベントの開催を契機とした スポーツ機運の高まりを生かしたスポーツ振興

ラグビーワールドカップ 2019 では，東京スタジアム（味の素スタジアム）で開会式，開幕戦を含む８試合が行われるとともに，調布駅前広場周辺ではファンゾーンが開催され，国内外から多くの方々が調布市を訪れました。これらのことは，多くの市民の記憶に刻まれ，スポーツに対する関心や期待感が高まり，翌年に予定されていた東京 2020 大会に向けた機運の醸成につながりました。

東京 2020 大会は，新型コロナウイルス感染拡大の影響により，史上初の１年延期となり，また緊急事態宣言が発出される中，市内の東京スタジアム（味の素スタジアム），武蔵野の森総合スポーツプラザをはじめ，多くの会場において無観客開催となるなど，これまでに経験のない困難な状況下での開催となりました。そうした中で，すべてのアスリートが自らの目標に向かって果敢に挑戦する姿は，全市民，とりわけ次代を担う子どもたちに大きな感動，そして夢と希望を与えてくれました。世界最大級のスポーツイベントを通して確認された「スポーツの価値」の重要性や，スポーツ機運の高まりを次代のまちづくりにつなげていく必要があります。

視点２

スポーツを通じた共生社会の充実

東京 2020 大会を契機とした「パラリンピックレガシー」の創出を目指し，共生社会の重要性を発信する取組として「パラハートちょうふ　つなげよう，ひろげよう，共に生きるまち」を市独自のキャッチフレーズとして掲げ，障害者スポーツの振興に向けた取組や，障害理解の促進に向けた取組などを展開しました。こうした取組を，次代のまちづくりに継承し，共生社会の更なる充実に向けて発展させていく必要があります。

視点３

トップスポーツチーム等多様な主体との連携

市は，これまでＦＣ東京とのパートナーシップを育み，市民スポーツの振興をはじめ，まちづくりの様々な分野において，クラブと連携した取組を展開してきました。

また，東京 2020 大会の車いすバスケットボール競技の市内開催を契機として，日本車いすバスケットボール連盟との連携協定を締結したほか，ラグビーワールドカップ 2019 閉幕後においては，東芝ブレイブルーパス東京や東京サントリーサンゴリアス，調布市，府中市，三鷹市による５者連携協定を締結しました。両大会を契機として構築・発展した様々なパートナーシップについては，一過性のものとせず，大会のレガシーとして継承・発展させていく必要があります。

第 3 章　市の目指す姿

1　将来像
2　基本目標
3　成果指標・目標値
4　計画の全体像

1　将来像

調布市基本計画に位置付けたスポーツ施策の方向性を踏まえ，以下の将来像の実現を目指すものとします。

生涯にわたって
誰もがスポーツに親しみ
生き生きと過ごせるまち
～スポーツを通じた共生社会の充実～

年齢や障害の有無等を問わず，広く市民がスポーツに親しみ，楽しめる環境を整備します。また，ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会のレガシーを継承・発展させ，スポーツを通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。

この将来像（基本理念）を実現するために，「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」[26]の理念に基づき，年齢や障害の有無にかかわらず，誰もがスポーツに親しむことができる機会を創出するとともに，市民ニーズを踏まえたスポーツ施設の利用環境の向上，安全で快適な市民のスポーツ環境の整備などを推進します。

とりわけ，東京 2020 大会を契機とした共生社会への理解・関心の高まりを捉え，誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し，様々な立場・状況の人とともにスポーツを楽しめる環境を充実させることで，スポーツを通じた，共生社会の一層の充実を図ります。

豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言

私たちのまち調布市は，世界的な音楽家や技術者を輩出する大学の立地，映画・映像を制作する企業や，国際的なスポーツ競技施設の集積などの特性を有し，誰もが，生涯を通じて，音楽・演劇をはじめ，映画・美術・伝統芸能・スポーツなど，さまざまな活動を楽しむことができます。

私たちは，この恵まれた環境を活かしながら，子どもから大人まで，女性も男性も，そして障害の有無にかかわらず，全ての市民が，それぞれに応じた活動を通して，豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくりに取り組んでいくことをここに宣言します。

豊かな
芸術文化・スポーツ活動を
育むまちづくり宣言

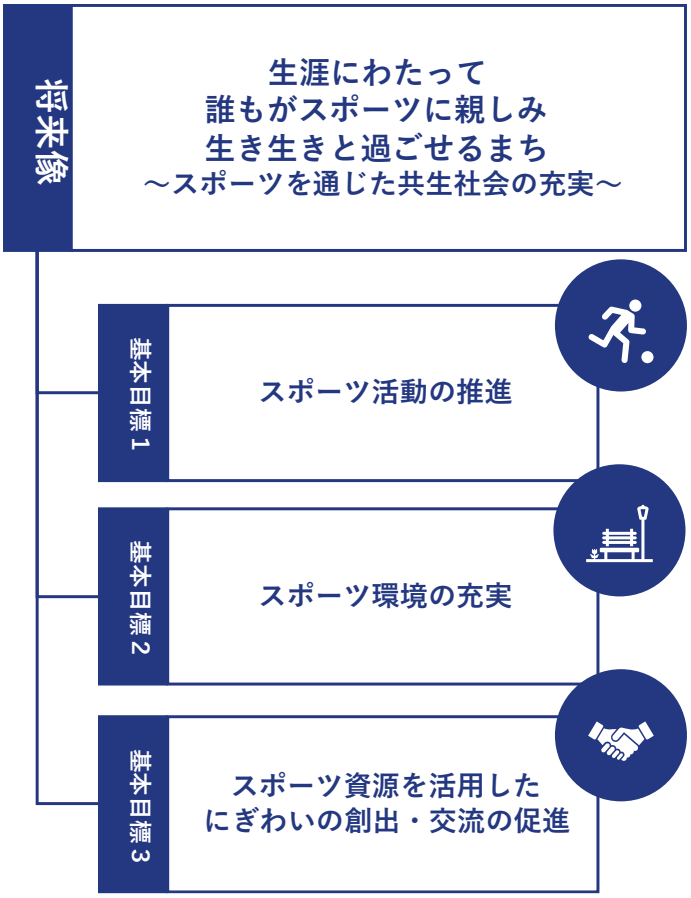
平成 27 年 11 月 8 日　調布市

26 平成 27（2015）年度の市制施行 60 周年の際に行った子どもから大人まで誰もが文化芸術・スポーツ活動を育むことができる場・つながる機会をより一層創出・支援するまちづくりに取り組むための宣言。

2　基本目標

スポーツを楽しみ，喜びを得るという「スポーツそのものが有する価値」（Well-being を実現する価値）を基本としつつ，スポーツを通じた市民一人一人の健康・体力の維持増進や，人と人とのつながりの強化，地域経済の活性化など，「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」といった側面も踏まえ，これらの『スポーツの力』を全ての市民が享受できるようスポーツ振興に取り組みます。

本計画では，将来像の実現に向け，以下の基本目標を掲げ，誰もがスポーツを楽しみ，喜びを実感しながら，「する」「みる」「ささえる」ことを実現できるよう，スポーツを「つくる／はぐくむ」等の国の掲げる新たな３つの視点を持ちつつ，環境や状況に応じてスポーツ施策を柔軟に見直し，改善を図りながら取組を推進します。



基本目標１　スポーツ活動の推進

＜現状＞

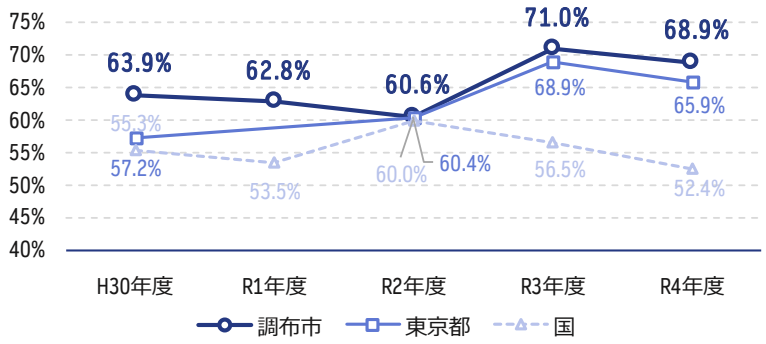
週１回以上スポーツをする市民の割合（スポーツ実施率）の推移をみると，新型コロナウイルス感染拡大の影響により一時減少したものの，その後コロナ禍前よりも高い水準となっています。

年代別にみると，10 歳代の実施率が最も高い傾向にありますが，その後 20 歳代から 40 歳代が相対的に低い水準にあり，50 歳代以降は概ね 70%以上で推移しています。

スポーツを実施している人は，各年代ともウォーキングや散歩，体操などが多くなっていますが，若い世代では軽い水泳やランニング（ジョギング）が多くなっています。また若者や働く世代，子育て世代のスポーツ実施率に課題があることから，ライフスタイル等に応じた取組が必要です。

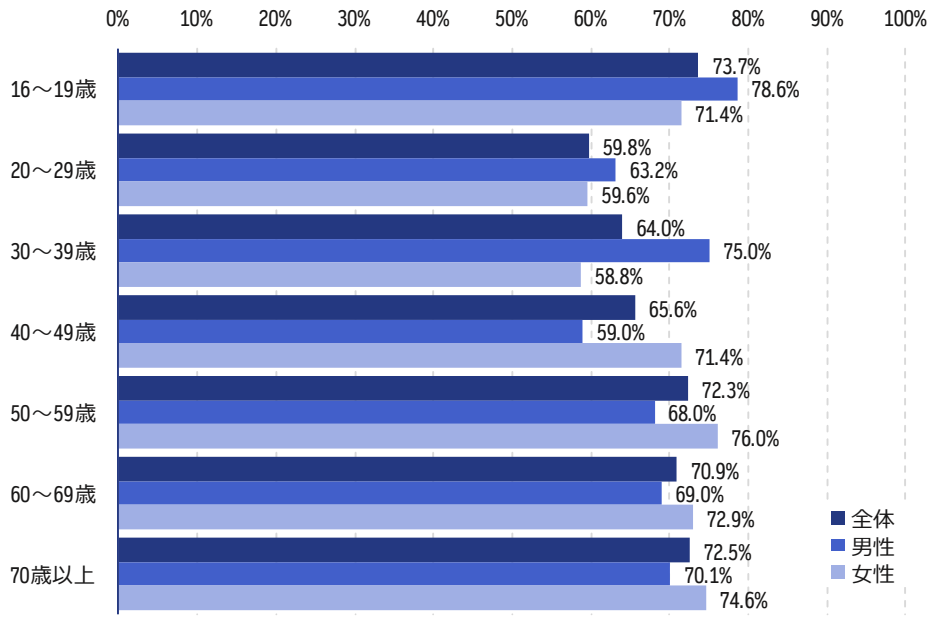
＜方向性＞

より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう，それぞれの年齢や体力等に応じ，各世代のニーズに合わせたスポーツへの参加機会の充実を図り，年齢や性別，障害の有無にかかわらず，誰もがスポーツに親しむことができる取組を推進します。



図表 37　週１回以上スポーツをする人の割合の推移（国・都比較）再掲

出典：調布市市民意識調査（調布市）/都民のスポーツ活動に関する実態調査（東京都）/スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）



図表 38　（性･年代別）週 1 回以上スポーツを実施している人の割合（n=1,181）再掲

出典：調布市民意識調査（調布市）結果より作成

20%以上を着色太字表記

%	10 代 (n=31)	20 代 (n=77)	30 代 (n=83)	40 代 (n=174)	50 代 (n=177)	60 代 (n=114)	70 歳以上 (n=137)
ウオーキング等	**61.3**	**72.7**	**71.1**	**66.7**	**74.0**	**83.3**	**81.0**
体操	**45.2**	**40.3**	**49.4**	**45.4**	**54.2**	**56.1**	**54.0**
軽い球技	**58.1**	**40.3**	16.9	**20.7**	14.7	15.8	14.6
軽い水泳	**22.6**	9.1	16.9	18.4	13.6	9.6	3.6
ランニング	**38.7**	**32.5**	**25.3**	**22.4**	**24.9**	14.9	7.3
室内運動器具	19.4	**23.4**	**21.7**	12.6	16.9	19.3	16.1
ダンス	**22.6**	7.8	7.2	2.3	4.5	3.5	6.6
サイクリング等	12.9	15.6	10.8	**20.1**	16.9	13.2	10.2
スキー等	12.9	**20.8**	6.0	8.0	6.8	5.3	0.0
サッカー等	**25.8**	6.5	3.6	6.9	3.4	0.9	0.7
テニス等	**22.6**	7.8	6.0	1.7	4.0	7.9	8.0
卓球	**22.6**	5.2	3.6	0.6	2.8	2.6	1.5
バレーボール	**22.6**	6.5	3.6	0.6	1.7	0.0	0.7

図表 39　1 年間で実施したスポーツ（種目別･年代別）抜粋

出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

基本目標２　スポーツ環境の充実

＜現状＞

スポーツ活動の拠点となる市立スポーツ施設の利用者数について，平成 30（2018）年度は 120 万人を超える状況でしたが，新型コロナウイルス感染症の影響により，令和２（2020）年度は約 70 万人に減少しました。その後，利用者数は徐々に回復しつつある状況にあります。

＜方向性＞

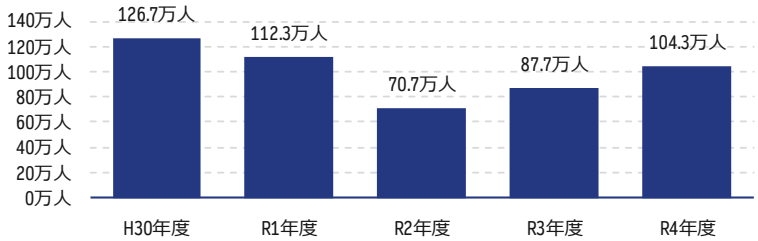
市民が安全で快適にスポーツ施設を利用できるよう，計画的な維持保全・改修を行うとともに，誰もがスポーツに取り組むための場の確保・充実や，部活動の地域連携・地域移行にも対応できるよう地域スポーツ指導者の育成・支援などにより，スポーツ環境の充実を図ります。

30%以上を着色太字表記

%	10 代 (n=31)	20 代 (n=77)	30 代 (n=83)	40 代 (n=174)	50 代 (n=177)	60 代 (n=114)	70 歳以上 (n=137)
道路や遊歩道	**45.2**	**51.9**	**50.6**	**59.2**	**59.3**	**60.5**	**44.5**
自宅またはその周辺	**54.8**	**54.5**	**51.8**	**59.8**	**59.3**	**55.3**	**46.7**
広場や公園	**38.7**	29.9	**34.9**	25.3	19.2	20.2	19.0
民間のスポーツ施設	25.8	**36.4**	21.7	27.6	**31.6**	29.8	19.7
公共のスポーツ施設	25.8	23.4	27.7	22.4	24.3	19.3	28.5
公民館	3.2	0.0	2.4	1.1	0.6	0.9	2.9
コミュニティ施設	0.0	6.5	4.8	2.9	3.4	3.5	6.6
学校（体育施設など）	**61.3**	15.6	7.2	8.0	7.9	3.5	3.6
職場	0.0	5.2	9.6	5.7	1.7	3.5	0.0
社会福祉施設	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	3.6
自然豊かなところ	12.9	**33.8**	**30.1**	**32.8**	29.9	25.4	16.1
その他	0.0	1.3	3.6	3.4	3.4	0.9	4.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.9	2.9

図表 40　スポーツをする場所（年代別）

出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）



図表 41　市スポーツ施設利用者数（学校施設開放含む）の推移 再掲

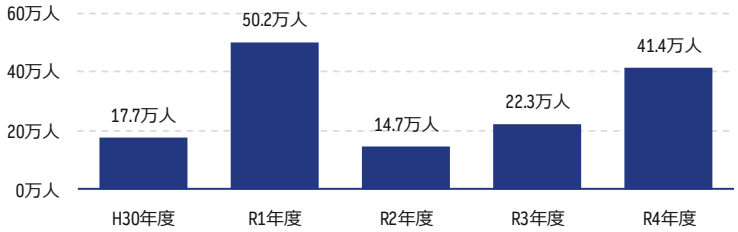
基本目標３　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進

＜現状＞

味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザといった多摩地域の一大スポーツ拠点においては，サッカーＪリーグ[27]やラグビーリーグワン[28]をはじめ，大規模な国内・国際スポーツ大会や各種イベントが開催され，市内外から多くの人々が訪れており，スポーツによるにぎわいや交流が創出されています。新型コロナウイルス感染症の影響により，交流人口は一時減少しましたが，感染症の５類移行[29]に伴う各種制限の撤廃等により徐々に回復し，現在は増加を続けています。

＜方向性＞

世界的なスポーツイベントの開催等を契機に，スポーツを活用した地域振興等への期待が高まっているなかで，トップスポーツチームや武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク等の豊富なスポーツ資源を活かし，スポーツを核としたまちのにぎわい創出を図るとともに，スポーツを通して市民の交流を促進します。



図表 42　スポーツイベント等における交流人口[30]の推移

27 日本サッカーの強化と地域スポーツの振興を目的に，1991 年に設立された日本初のプロサッカーリーグ。

28 「JAPAN RUGBY LEAGUE ONE」（ジャパンラグビー リーグワン）は，2003 年から行われていた「トップリーグ」に代わり，2022 年１月に開幕した日本最高峰のラグビーの大会。2023-2024 シーズンでは 23 チームが参加し，３つのディビジョンに分かれて開催されている。

29 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが令和５（2023）年５月８日に２類相当（新型インフルエンザ等感染症）から５類感染症へ移行した。

30 交流人口とは，その地域に訪れる人，または交流する人のこと。味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザなどで実施されるスポーツ大会やイベントの来場者数，市が主催・共催もしくは協力するスポーツ大会やイベントへの参加者数，市と連携するトップスポーツチームの味の素スタジアムにおける観戦者数等を元に集計。

3　成果指標・目標値

（1）成果指標・目標値

本計画における目指す姿の達成度合いを図る成果指標として，以下の３つを定めます。

基本目標	成果指標	現状値(R4)		目標値(R12)
スポーツ活動の推進	週１回以上スポーツをする市民の割合	68.9%	▸	70%
スポーツ環境の充実	市スポーツ施設利用者数（学校施設開放含む）	104.3 万人	▸	130 万人
スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進	スポーツイベント等における交流人口	41.4 万人	▸	50 万人

図表 43　成果指標

（2）成果指標の考え方

①　週１回以上スポーツをする市民の割合

毎年実施している市民意識調査により，週 1 回以上スポーツをする市民の割合を把握します[31]。なお，本計画が，スポーツ基本法における「地方スポーツ推進計画」としての位置付けであることを踏まえ，国や東京都の目標値である 70%以上を目標値としました。

②　市スポーツ施設利用者数

市立スポーツ施設の利用者数（学校施設開放含む）を実績報告により集計します。

③　スポーツイベント等における交流人口

味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザなどで実施されるスポーツ大会やイベントの来場者数，市が主催・共催もしくは協力するスポーツ大会やイベントへの参加者数，市と連携するトップスポーツチーム（ＦＣ東京，東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス）の味の素スタジアムにおける観戦者数等を集計します。

31 毎年実施している「調布市民意識調査」の結果を活用

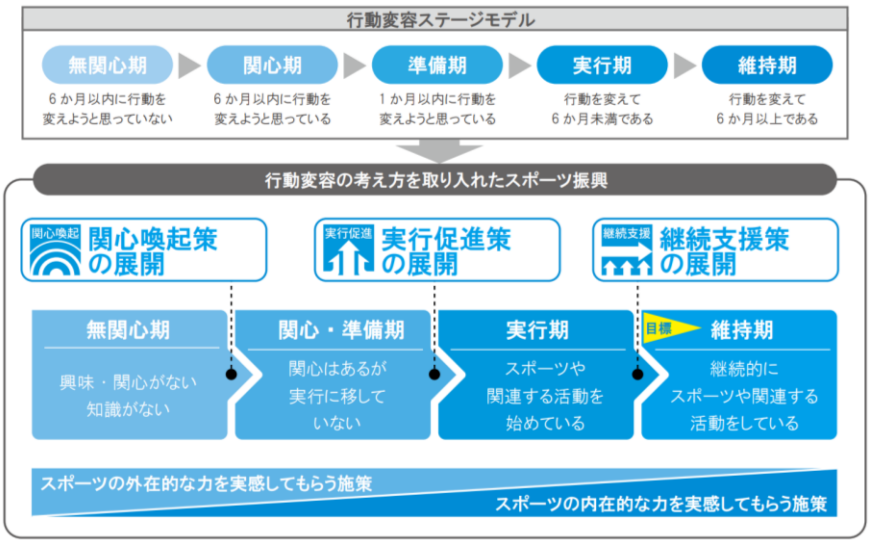
4　計画の全体像

３つの基本目標とそれに紐づく基本施策は，それぞれが完全に独立したものとして捉えるのではなく，相互に密接に関係し合うため，関連する分野や施策が横断的に関わり合い，スポーツ推進に携わる各主体が連携・協働して取り組みます。

基本施策	区分			ステージ		
	する	みる	ささえる	関心喚起	実行促進	継続支援
基本目標１　スポーツ活動の推進						
スポーツをはじめる機会の創出	○			○	○	
地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上	○			○	○	○
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	○				○	○
障害の有無にかかわらないスポーツ振興	○			○	○	○
スポーツの支え手の育成・支援			○		○	○
基本目標２　スポーツ環境の充実						
スポーツ施設の整備	○				○	○
スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営	○				○	○
スポーツに取り組むための場の確保・充実	○				○	○
地域スポーツ指導者の育成・支援			○		○	○
スポーツに関する情報発信の充実	○	○	○	○	○	○
基本目標３　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進						
地域ゆかりのアスリートの支援	○	○	○	○	○	○
トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進	○	○	○	○	○	○
多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進	○	○	○	○	○	○
大規模スポーツイベントのレガシーの活用	○	○	○	○	○	○

行動変容ステージモデル

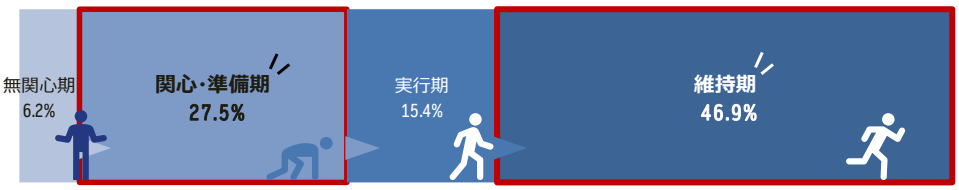
行動変容ステージモデルとは，運動をはじめ様々な健康に関する行動を把握するための考え方であり，人が行動を変えて新たな習慣が定着していく過程には，無関心期，関心期，準備期，実行期，維持期という５つのステージを経過していくという考え方です。東京都スポーツ推進総合計画でも取り入れられています。



図表 44　行動変容ステージモデル

出典：東京都スポーツ推進総合計画

週１回以上スポーツをする市民の割合（スポーツ実施率）向上に向けた着眼点としては，関心・準備期層への実行促進策の展開がポイントとなります。また，スポーツ実施率を下支えするボリュームゾーンである維持期層の人々が今後も活動を続けていくための施策についても，継続的に展開していく必要があります。



図表 45　スポーツに対する市民の意識･行動の分布

出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

第 4 章　施策の展開

1　体系図
2　各施策

1　体系図

将来像	基本目標
生涯にわたって誰もがスポーツに親しみ生き生きと過ごせるまち ～スポーツを通じた共生社会の充実～	**1　スポーツ活動の推進** **成果指標：週１回以上スポーツをする市民の割合** 現状値（R4 年度）　目標値（R12 年度） **68.9%　➡　70%**
	2　スポーツ環境の充実 **成果指標：市スポーツ施設利用者数（学校施設開放含む）** 現状値（R4 年度）　目標値（R12 年度） **104.3 万人　➡　130 万人**
	3　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進 **成果指標：スポーツイベント等における交流人口** 現状値（R4 年度）　目標値（R12 年度） **41.4 万人　➡　50 万人**

基本施策	主な取組
1-1 スポーツをはじめる機会の創出	● 多様なスポーツイベントの開催 ● 健康の維持増進のための取組の実施 ● トップスポーツチーム等と連携した学校訪問等の実施
1-2 地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上	● 子どもの体力向上事業の実施 ● 地域におけるスポーツ大会の実施
1-3 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	● 幅広い年代に向けた運動プログラムの実施 ● シニアスポーツの振興 ● ニュースポーツ等の普及・啓発
1-4 障害の有無にかかわらないスポーツ振興	● 障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた取組の実施 ● パラスポーツの普及・啓発 ● デフリンピックを契機とした取組の推進
1- 5 スポーツの支え手の育成・支援	● 地域スポーツを支える団体等の育成・支援 ● スポーツボランティアの育成と活動の促進
2-1 スポーツ施設の整備	● スポーツ施設の維持保全・計画的な改修
2- 2 スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営	● 施設管理における効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討 ● スポーツ施設の再配置の検討
2-3 スポーツに取り組むための場の確保・充実	● スポーツ施設を活用した地域スポーツの場の確保と支援 ● 東京都や民間のスポーツ施設，学校施設等の活用
2-4 地域スポーツ指導者の育成・支援	● 指導者育成に向けた取組の充実 ● スポーツ指導員派遣事業の充実 ● 部活動地域連携・地域移行への対応
2-5 スポーツに関する情報発信の充実	● 市ホームページ等でのスポーツ情報の充実 ● SNS 等を活用した情報発信の充実 ● スポーツや健康に関する普及啓発
3-1 地域ゆかりのアスリートの支援	● 調布市ゆかりのアスリートの応援 ● 次代を担うスポーツ選手の発掘・支援
3-2 トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進	● トップアスリートとの交流機会の創出 ● トップスポーツの観戦・応援機会の創出 ● トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化
3-3 多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進	● 大規模スポーツイベント等の開催支援 ● 大規模スポーツイベント等と連携した地域振興の促進
3-4 大規模スポーツイベントのレガシーの活用	● 大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展 ● 他分野間連携の推進 ● パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の取組推進

2　各施策

基本目標１　スポーツ活動の推進

基本施策１－１　スポーツをはじめる機会の創出

市民がスポーツをはじめる機会を創出していくため，誰もが参加可能なスポーツイベントを開催するほか，多様な主体の取組への支援を通じて，市民がライフスタイルに応じて気軽にスポーツができる機会を提供していきます。

また，トップスポーツチーム等と連携し，トップアスリートの学校訪問やスポーツイベントでの市民交流を通じて，スポーツをはじめるきっかけを提供します。

取組　多様なスポーツイベントの開催

市民駅伝競走大会

市民体育祭や市民スポーツまつり，市民駅伝競走大会，パラスポーツ体験，スポーツ施設でのスポーツ教室等，年齢や性別を問わず，誰もが気軽にスポーツやレクリエーションを楽しめる機会の充実を図ります。

また，総合体育館の指定管理者である調布市スポーツ協会や，大町スポーツ施設を拠点として活動する総合型地域スポーツクラブの調和ＳＨＣ倶楽部が実施する様々なスポーツイベントや教室等について，実施主体との連携・支援を行うことで，市民のライフスタイルに応じて気軽にスポーツをはじめる機会の提供を行います。

＜主な事業＞

- 誰もが参加・体験できるスポーツイベントの開催
  （市民体育祭，市民スポーツまつり，市民駅伝競走大会など）
- 参加・体験型パラスポーツイベントの開催
  （パラスポーツ体験会，東京都市町村ボッチャ大会など）
- 市立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等の展開

取組　健康の維持増進のための取組の実施

リフレッシュ体操スクール

市内各所で実施するリフレッシュ体操スクールなどにより，市民がライフステージに応じて身近な場所で気軽に体を動かす機会を提供します。また，健康に関する講座等の実施を通して，知識の獲得や意欲の向上を促し，市民の健康増進を支援します。

＜主な事業＞

- リフレッシュ体操スクールの実施
- スポーツ協会セブンプログラムの実施
- 健康に関する講座（今から始める健康づくり教室）等の実施

取組　トップスポーツチーム等と連携した学校訪問等の実施

トップスポーツチーム等との連携・協働による学校訪問や体験事業等の実施，またトップスポーツチームによる地域貢献活動を支援することで，子どもたちをはじめとした市民とトップアスリートとの交流を促進し，スポーツへの興味・関心を高め，スポーツに参加するきっかけづくりを行います。

ＦＣ東京
子どもサッカー体験教室

東芝ブレイブルーパス東京
学校訪問

読売巨人軍による学校訪問

ＮＴＴ 東日本バドミントン部
地域感謝祭

＜主な事業＞

- トップスポーツチーム等との連携による学校訪問等の実施
- トップスポーツチームによる地域貢献活動等への支援

コラム：CHOFU ドリームプロジェクト（調布市スポーツ協会事業）

ＣＨＯＦＵドリームプロジェクトは，様々な競技の誰もが知るトップアスリートをゲストに招き，競技への興味，関心を高め，スポーツに接する機会を創出することを目的として実施する教室型のプロジェクトです。

令和４年度は，元プロ野球選手の岩隈久志氏を招き，子ども野球教室を開催し，231 人が参加しました。また，令和５年度は，水谷隼氏による卓球ショーやトップ選手による卓球教室を開催し，約 100 人が参加しました。

子ども野球教室

卓球教室

基本施策１－２　地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上

トップスポーツチームやアスリート等，様々な主体と連携し，スポーツへの関心喚起，運動するきっかけづくり，運動習慣の定着，体力や運動能力の向上に向けた取組等を実施することで，身近な地域で子どもがスポーツを楽しめる環境づくりを推進します。

取組　子どもの体力向上事業の実施

教育委員会や調布市スポーツ協会と連携し，子どもたちが運動，スポーツの多様な楽しみ方を実感できる取組や，運動習慣の定着化につながる取組を進めます。

トップスポーツチームやアスリート等と連携し，スポーツと楽しく触れ合う機会の創出に取り組みます。

また，ジュニア世代の育成事業を通して，子どものスポーツの普及・育成，競技力の向上を図ります。

ジュニア陸上体験教室

© FC TOKYO

あおあかドリル

＜主な事業＞

- ゆめおり陸上クラブ出前授業
- ジュニア陸上体験教室
- トップアスリート派遣事業
- あおあかドリルの配布
- ＦＣ東京小学校対象サッカー教室
- ジュニア育成地域推進事業（調布市スポーツ協会事業）

取組　地域におけるスポーツ大会の実施

児童館や学童クラブ，健全育成など，様々な場所で地域のスポーツ大会を実施又は支援することで，学校の授業以外でも，身近な地域で子どもたちが体を動かし，スポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。

小学生ドッヂビー大会

健全育成ソフトボール大会

＜主な事業＞

- 小学生ドッヂビー大会の開催
- 児童館・学童クラブでのスポーツ大会の開催
- 健全育成ソフトボール大会の開催
- スポーツ協会加盟団体主催大会への支援

コラム：調布市小学生タグラグビー大会（調布市民体育祭ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ競技）

ラグビーワールドカップ 2019，東京 2020 大会の７人制ラグビーの開催に向け，青少年の健全育成の推進及びラグビー競技に対する地域社会の理解を醸成することを目的として，平成 28（2016）年度から調布市小学生タグラグビー大会として実施してきました。令和４年度からは調布市民体育祭として，市内小学校から多くのチームが出場し，タグラグビーによる交流を図っています。令和５（2023）年度においては，市内小学校から 23 チーム・約 180 人の児童が出場しました。

市民体育祭ラグビー
フットボール競技(タグラグビーの部)

基本施策１－３　ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう，それぞれの年齢や体力等，また各世代のニーズに合わせたスポーツへの参加機会の充実を図り，誰もがスポーツに親しめる機会の創出に取り組みます。

取組　幅広い年代に向けた運動プログラムの実施

子どもから高齢者まで，幅広い年代層を対象としたスポーツ教室やイベントなどの運動プログラムを展開し，市民が生涯を通じてスポーツに親しむ機会を提供するとともに，調布市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブである調和ＳＨＣ倶楽部の取組を支援します。

＜主な事業＞

- スポーツ協会セブンプログラムの実施
- リフレッシュ体操スクールの実施
- 誰もが参加・体験できるスポーツイベント・教室の開催

取組　シニアスポーツの振興

高齢者の健康維持・増進や地域での仲間づくりを支えていくため，高齢者がスポーツに親しみ，世代を越えてスポーツを楽しむ機会を提供します。

高齢者体操教室

＜主な事業＞

- 高齢者体操教室
- シニアスポーツ振興事業（調布市スポーツ協会事業）
- 総合型地域スポーツクラブ（調和ＳＨＣ倶楽部）におけるシニアスポーツ振興事業の支援

コラム：若者・働く世代・子育て世代のスポーツ参加

若者・働く世代・子育て世代のスポーツ参加機会の充実に向けてスポーツ実施率が比較的低い若い年代層に向け，スポーツ活動に参加しやすい機会の充実を図ります。

＜主な取組＞

- ＳＮＳなどでのスポーツ情報発信の充実によるスポーツへの関心喚起
- 親子参加型のスポーツの場の提供
- スポーツ大会の開催支援
- 気軽にできるウォーキング・ランニングなどの大会開催等の支援
- 調布市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブによる取組の支援
- 身近な場所でのスポーツ観戦機会の提供
- 若者へのボランティア機会の提供
- 全国大会や国際大会に出場する選手への支援
- 「調布市応援アスリート」制度による地域ゆかりのアスリートの応援

取組 **ニュースポーツ等の普及・啓発**

スポーツ経験や年齢，性別等にかかわらず親しめるニュースポーツの普及・啓発に取り組むとともに，これらの取組を通じて，世代を超えた市民の交流を促進します。

また，東京 2020 大会を契機として注目されたアーバンスポーツに関する取組についても検討します。

ニュースポーツ交流会

＜主な事業＞

- ニュースポーツ交流会
- ニュースポーツの普及・啓発に向けた取組

コラム：アーバンスポーツ

「アーバンスポーツ」とは，ＢＭＸ，スケートボード，パルクール，インラインスケート，ブレイクダンス等の都市型スポーツのことを指します。

日本では広島県において，「FISE Hiroshima 2018」というアーバンスポーツの世界大会が平成 30（2018）年に開催されました。同大会の開催を機にアーバンスポーツ普及促進と東京 2020 大会の機運醸成という二つの目標を掲げた「一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会」が発足し，アーバンスポーツの価値向上，青少年の健全育成や国民の健康増進の取組が進められています。

基本施策１－４　障害の有無にかかわらないスポーツ振興

障害の特性や障害当事者のニーズ等に対応し，障害のある方が身近な場所でスポーツに取り組める環境の充実を図ります。また，パラスポーツの体験や，小・中学校でのパラリンピック教育事業などを通して，パラスポーツの普及・啓発や障害理解の促進を図ります。

令和７（2025）年には東京でデフリンピックが開催され，市内でもバドミントン競技が実施される予定であることから，大会を契機とした取組を推進します。

取組　障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた取組の実施

スポーツ・福祉・医療分野などの関係者との連携を図り，障害の特性や障害当事者のニーズ等を踏まえて障害当事者の運動機会の創出・定着に取り組みます。

障害者余暇活動支援事業
（ほりで～ぷらん）

＜主な事業＞

- 「障害者スポーツの振興における協議体」を活用した取組の推進
- 障害者施設への指導者派遣事業
- 指定管理者における障害者の利用促進に向けた取組
- 障害児（者）フットサル事業（あおぞらサッカースクール）
- 障害者余暇活動支援事業（ほりで～ぷらん）
- 「遊 ing」，「杉の木青年教室」など，障害のある方の社会体験活動への支援

コラム：障害者スポーツの振興における協議体

「障害者スポーツの振興」という目的のもと，東京都との連携により，スポーツ・福祉・医療分野の関係団体による協議体を令和元年度に設置しました。「平日のスポーツ活動の充実」，「余暇のスポーツ活動の充実」，「協議体参加団体のための講習会」を３つの柱とし，各団体の現状や課題，障害者スポーツ振興のためにできること等を持ちより，連携の可能性を見出し，課題解決に向けた話し合いや障害当事者の運動機会創出・定着に向けた取組を行っています。

協議体

＜協議体参加団体＞（令和６年３月現在）

- 調布市スポーツ協会
- 調布市スポーツ推進委員会
- 調和ＳＨＣ倶楽部
- 調布市社会福祉協議会
- 調布市社会福祉事業団
- 調布市福祉作業所等連絡会
- 東京都理学療法士協会
- 東京都障害者スポーツ協会
- 東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部パラスポーツ課

（事務局）調布市スポーツ振興課・障害福祉課

取組 パラスポーツの普及・啓発

市民がパラスポーツを体験し，親しむ機会を拡充することで，パラスポーツの普及・啓発を図ります。また，日本ブラインドサッカー協会等と連携し，子どもたちがパラスポーツに触れる機会を提供することで，障害理解の促進につなげ，共生社会の充実を図ります。

パラスポーツ体験プログラム
「あすチャレ！」

ブラインドサッカー®
体験型教育プログラム「スポ育®」

＜主な事業＞

- パラスポーツ体験イベントの実施
- 子どもたちの障害理解促進に向けた取組の実施（ブラインドサッカー®体験型教育プログラム「スポ育®」，パラスポーツ体験プログラム「あすチャレ！」など）
- 東京都市町村ボッチャ大会の継続開催

取組 デフリンピックを契機とした取組の推進

令和7（2025）年のデフリンピック東京開催を契機として，大会に向けた機運醸成はもとより，ユニバーサルコミュニケーション[32]の促進や，互いの違いを認め合い，尊重し合う共生社会の充実に向けた取組を一層推進します。

＜主な事業＞

- 大会に向けた機運醸成（デフスポーツ体験，デフリンピアンとの交流など）
- 障害理解の促進（手話の啓発など）
- 東京都等と連携した円滑な大会開催のための支援

コラム：デフリンピックとは

国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催するろう者による国際スポーツ大会。（デフ(Deaf)は英語で「耳がきこえない」という意味）

東京 2025 デフリンピック（略称，正式名称は「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」）は 100 周年の記念すべき大会であり，日本では初開催となる。市内では武蔵野の森総合スポーツプラザにてバドミントン競技が開催予定。

＜東京 2025 デフリンピックの概要＞

日　　程：2025 年 11 月 15 日～26 日（9 日間）
競　　技：21 競技（陸上，バドミントン，バスケットボールなど）
会　　場：都内 16 会場（サッカーは福島県，自転車は静岡県）
　　調布市では武蔵野の森総合スポーツプラザにてバドミントン競技が開催予定
出 場 選 手：70～80 か国・地域，約 3,000 人

32 日常生活において，年齢や障害の有無，母国語の違い等に関わらず，必要な情報がより多くの方に届き，また意思疎通が可能となる環境としていくこと。

基本施策１－５　スポーツの支え手の育成・支援

地域スポーツの支え手であるスポーツ団体等の事業や組織力の強化を支援するとともに，相互に連携し，市民の健康増進及び体力向上等を目的とした市民スポーツの振興を図ります。

また，スポーツを「支える」担い手であるスポーツボランティアの育成に取り組むとともに，活動の場の拡充を図ることで，ボランティア活動を促進します。

調布市スポーツ協会加盟団体	スポーツ協会加盟団体（競技連盟・協会など）	**33 団体**
	総会員数	**9,900 人**
	協会・連盟に所属する団体数（チームなど）	**438 団体**
調布市スポーツ少年団	団体数	**4 団体**
	総会員数	**159 人**

図表 46　調布市スポーツ協会加盟団体･調布市スポーツ少年団（令和６年３月現在）

取組　地域スポーツを支える団体等の育成・支援

地域スポーツの担い手である調布市スポーツ推進委員会や調布市スポーツ協会，総合型地域スポーツクラブ（調和ＳＨＣ倶楽部）の事業や組織力の強化を支援します。調布市スポーツ協会への支援を通して，協会に加盟するスポーツ団体を育成し，地域スポーツの裾野の拡大を図ります。

また，大会で優秀な成績を残したアスリートの顕彰だけでなく，スポーツ振興を支援している市民や団体の活動も称えていきます。

＜主な事業＞

- 調布市スポーツ協会への支援（加盟団体，スポーツ団体への支援含む）
- 調布市スポーツ推進委員会への支援
- 総合型地域スポーツクラブ（調和ＳＨＣ倶楽部）への支援
- スポーツを支える市民・団体の顕彰等

取組　スポーツボランティアの育成と活動の促進

市民スポーツまつりや市民駅伝競走大会の運営など，市のスポーツイベントは，多くのスポーツボランティアの支えにより成り立っています。

調布市スポーツ協会と連携し，スポーツボランティアの人材育成やスポーツイベント等の運営を支える機会の創出に取り組むことでボランティア活動を促進し，市民のスポーツボランティアへの参加意欲を高めます。

スポーツボランティア募集チラシ

＜主な事業＞

- スポーツボランティアの育成
- スポーツボランティアの活動促進

コラム：調和ＳＨＣ倶楽部

調和ＳＨＣ倶楽部とは，調布市立調和小学校地区とその周辺の地域の方々を対象とした市内初の「総合型地域スポーツ・文化クラブ」です。平成 14（2002）年 9 月に設立され，平成 15（2003）年 11 月には東京都より「特定非営利活動法人（NPO）」の認証を取得しました。ＳＨＣの Ｓ は「Sports（スポーツ）」，Ｈ は「Health（健康）」，Ｃ は「Culture（文化）」の頭文字。現在は 1,000 人を超える会員が在籍し，子どもからお年寄りまで，みんなの笑顔が広がる魅力あるクラブを目指して日々活動しています。

老若男女誰でも参加できるサークル・教室が，数多く用意されているのがクラブの特徴であり，中でも高齢者に対応できるプログラムに力を入れていて，多くの会員が参加しています。

令和５年 11 月 26 日
パラスポーツ・ボッチャ
調布市交流会

基本目標２　スポーツ環境の充実

基本施策２－１　スポーツ施設の整備

スポーツ施設をより効率的かつ効果的に維持管理・運営していくために，調布市公共施設マネジメント計画[33]や各施設の利用実態，老朽化の状況などを踏まえ，維持保全や改修工事を計画的に実施するとともに，市民ニーズを踏まえた安全で利便性の高いスポーツ施設の整備に努めます。

取組　**スポーツ施設の維持保全・計画的な改修**

利用者の安全・安心を第一に，スポーツ施設の状況や利用者ニーズなどを踏まえながら，順次整備を行いつつ，調布市公共施設マネジメント計画に基づき，計画的に維持保全や改修工事を進めることにより，安全で利便性の高いスポーツ施設の整備を図ります。

＜主な事業＞

- スポーツ施設の維持保全・改修
- スポーツ施設の利便性向上に向けた取組
- スポーツ施設における環境負荷低減に向けた取組

コラム：グリーンダスト舗装

グリーンダスト舗装とは，輝緑安山岩[34]などを破砕したグリーンダストを使った土系舗装です。透水性が高くグラウンドの水はけが良くなるため，降雨による影響を受けにくくなります。また，乾燥した場合においても，グラウンドの埃が立ちにくいといった効果があります。市では，調布基地跡地運動広場の一部グラウンドに導入し，利用環境の向上を図っています。

グリーンダスト舗装をしたグラウンド
（調布基地跡地運動広場）

33 市の公共施設の多くが，建設から 30 年経過に伴って老朽化が進行しており，今後，一斉に更新（建替）が必要になることが見込まれる。市は，質の高い市民サービスを持続的に提供できる市政経営の確立を目指して，適切な維持保全や更新のほか，費用の平準化などの取組を推進するため，施設における今後の在り方・方向を示すために策定したもの。

34 火成岩（岩石）の一種。建築や土木工事などに用いられており，深緑色（ダークグリーン）の安山岩がグリーンダスト舗装などで使われる。

コラム：ゼロカーボンシティに向けて

地球規模で発生している熱波や集中豪雨など，これまで経験したことのない自然災害や異常気象が深刻化する中，気候変動への対策は喫緊の課題です。

令和３（2021）年４月，市と市議会は，脱炭素社会の実現に向けて「2050 年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」にする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。持続可能性をテーマにカーボンマイナス大会を実現した東京 2020 大会を契機として，市は，市民や事業者と協働して市域全体で地球温暖化対策の取組を推進することにより，「2050 年ゼロカーボンシティ」に向けた取組を進めています。

スポーツ施設においても，照明の LED 化[35]を図るなど，環境負荷の低減に向けた取組を推進していきます。

コラム：スポーツ施設における暑熱対策

近年の猛暑傾向を踏まえ，各スポーツ施設に，デジタル温度計を設置し，注意喚起を行っているほか，特に夏場の利用環境を向上する観点から，屋内施設への空調設備の設置や，屋外の一部グラウンドや市民野球場へのミストシャワー[36]の設置等により，暑熱対策を図るなど，安全で快適なスポーツ環境の整備に取り組んでいます。

スポーツ施設におけるミストシャワーの設置（左：市民野球場，右：調布基地跡地運動広場）

コラム：スポーツ施設における安全・安心の確保に向けた取組（AED の設置）

安心してスポーツ活動を行うための環境を整備し，スポーツによって生じる事故・外傷・障害等の防止や軽減を図ることが必要です。市は，スポーツ施設で不測の事態が生じた際に，速やかに対応できるよう，各市立スポーツ施設へＡＥＤ（自動体外式除細動器）を設置しています。なお，ＡＥＤ設置場所は市ホームページでお知らせしているほか，利用者に分かりやすいよう，現地にはのぼり旗を設置しています。

のぼりイメージ

＜ＡＥＤを設置している市立スポーツ施設＞

- 総合体育館
- 市民西調布体育館
- 市民西町野球場・市民西町少年野球場・市民西町サッカー場
- 市民野球場・市民プール・市民多摩川テニスコート
- 市民深大寺テニスコート
- 市民緑ケ丘テニスコート
- 市民大町スポーツ施設
- 調布基地跡地運動広場
- 多摩川児童公園内運動施設

35 照明ＬＥＤ化により，消費電力やＣＯ２の排出削減など，環境負荷の低減効果がある。市のスポーツ施設では，既に総合体育館，西調布体育館，大町スポーツ施設などの屋内スポーツ施設において照明ＬＥＤ化を実施しているが，今後は，屋外スポーツ施設の夜間照明のＬＥＤ化を順次進めていく。

36 熱中症対策として，霧状の水を散布する装置のこと。特に夏場の利用環境を向上する観点から，屋外施設である調布基地跡地運動広場の一部グラウンド及び市民野球場のダグアウトベンチ上部に設置している。

基本施策２－２　スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営

多様化するスポーツ活動に対するニーズや各スポーツ施設を取り巻く課題を踏まえ，施設管理におけるより効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討に取り組みます。あわせて，中央自動車道の耐震補強工事等に伴う西調布体育館の代替機能の検討・確保や市民プールに関する今後の対応の検討など，スポーツ施設の再配置の検討に取り組みます。

取組　施設管理における効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討

行政のデジタル化の潮流を踏まえながら，スポーツ施設の利便性向上に向け，キャッシュレス決済の導入や施設利用予約システム更新を含む利用環境向上の取組を検討します。あわせて，市民にとってより身近で利用しやすい施設となるよう，ＳＮＳ等を活用した情報発信に取り組みます。

＜主な事業＞

- デジタル技術の活用等によるスポーツ施設の利便性向上の検討

取組　スポーツ施設の再配置の検討

中日本高速道路株式会社による中央自動車道の耐震補強工事等に伴い，高架下に設置している公共施設について，一時的な撤去や閉鎖などの影響を受けることとなり，移転等の取組が必要になっています。スポーツ施設としては，中央自動車道高架下に位置する西調布体育館について，周辺の公共施設用地を活用した代替施設の建設による機能移転等を視野に，今後に向けた検討を行ってきました。引き続き，中央自動車道の耐震補強工事等に伴う影響を把握する中で，その対応方法を含めて，利用団体や地域の皆様に適時適切な情報提供を行いつつ，西調布体育館の移転・更新に向けて，利用団体の皆様のスポーツ活動が継続できるよう計画的に取り組みます。

また，設置から 50 年以上が経過している市民プールについては，施設・設備の老朽化や運営上の課題を踏まえ，今後の対応について多角的に検討します。

＜主な事業＞

- 西調布体育館の代替機能の検討・確保
- 市民プールの今後の対応の検討

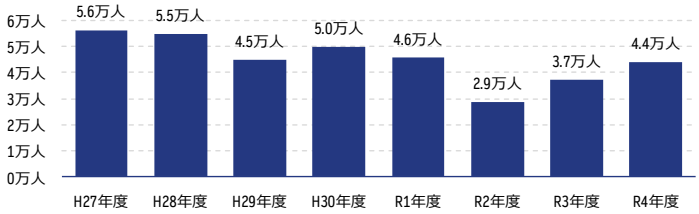
コラム：調布市民西調布体育館の概要

西調布体育館は，高速道路高架下にある屋内スポーツ施設です。体育室が２室，ミーティングルームが１室あり，様々な種目で利用できますが，特に剣道・柔道・空手道・合気道・なぎなたといった武道系の競技を中心に利用されています。

西調布体育館

＜施設概要＞

所 在 地	東京都調布市上石原 2 丁目 4 番地 1
設置年月	昭和 59 年３月
アクセス	京王線西調布駅から南西へ徒歩約 10 分
利用種目	卓球，柔道，剣道，合気道，なぎなた，ダンス・体操等の練習・試合等(団体使用に限る)で使用可 ※バスケットボール，バレーボール，バドミントン等は使用不可



西調布体育館の利用者数の推移

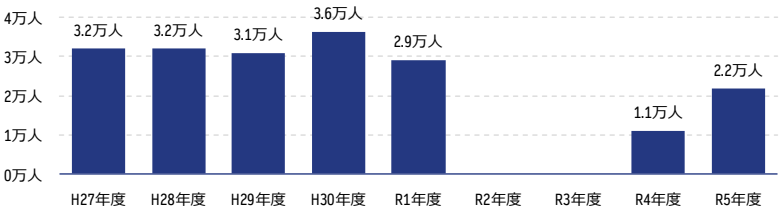
コラム：市民プールの概要

市民プールは，屋外プール施設として，夏季の開催期間中は大変多くの利用者でにぎわっています。一方，設置後 50 年以上が経過し，施設・設備の老朽化が課題となっているほか，近年では猛暑の中，運営上の課題が生じています。

市民プール

＜施設概要＞

所 在 地	東京都調布市染地 2 丁目 43 番地 1
設置年月	昭和 46 年３月
開設期間	毎年 7 月 10 日～9 月 10 日　午前 9 時～午後 6 時 30 分
アクセス	バス調布駅南口広場発多摩川住宅西行きバス市民プール下車 徒歩京王多摩川駅より東へ徒歩 15 分 徒歩調布駅または布田駅から南へ徒歩 20 分



市民プールの利用者数の推移[37]

37 Ｒ２，Ｒ３は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

基本施策２－３　スポーツに取り組むための場の確保・充実

市民が身近な場でスポーツに取り組めるよう，総合体育館をはじめとした市立スポーツ施設で実施されるスポーツ教室等のプログラムを支援します。

また，公有地や学校施設の活用をはじめ，東京都や民間事業者との連携，市内大学施設の活用を進め，スポーツができる場の確保・充実を図ります。

取組　スポーツ施設を活用した地域スポーツの場の確保と支援

総合体育館の指定管理者である調布市スポーツ協会や，大町スポーツ施設を拠点として活動する総合型地域スポーツクラブの調和ＳＨＣ倶楽部が実施する様々なスポーツ振興のためのイベントやスポーツ教室等について，実施主体と連携を図り，イベント等への支援を行うことで，市民のライフスタイルに応じて気軽にスポーツをはじめる機会を提供します。

＜主な事業＞

- 市立スポーツ施設を活用したスポーツイベント等への支援

取組　東京都や民間のスポーツ施設，学校施設等の活用

市内にある味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザといった都立施設について，東京都や指定管理者等と連携し，スポーツイベントの実施などを通じた市民利用を促進します。また，民間事業者や大学等と連携し，市民がスポーツに取り組める場の確保に努めます。

あわせて，調布中学校の弓道場やテニスコート，調和小学校の屋内プールを学校教育活動使用時以外に市民開放するほか，社会教育及び社会体育の振興，普及を進めながら健康の増進を図ることを目的に学校施設の開放を行います。

＜主な事業＞

- 都立スポーツ施設の活用
- 民間・大学スポーツ施設の活用（ミズノフットサルプラザ，電気通信大学など）
- 学校開放事業の実施

コラム：スポーツ協会セブンプログラム

調布市スポーツ協会では，市民スポーツの振興に向け，７つのプログラムを柱とした「スポーツ協会セブンプログラム」を展開し，指定管理する総合体育館において，市民が身近な場所でスポーツに取り組める場の提供・充実を図っています。

＜プログラムの内容＞

1　健康増進プログラム

運動する機会がない方を対象に，無理なく日常的に参加できるプログラム（バランスボールエクササイズ，ナイトヨガスクール，ヘルシーウォーキング等）

健康増進プログラム

2　ジュニアスポーツプログラム

気軽にスポーツに参加できる機会の提供，自分に合ったスポーツの発見，きっかけづくりとして，体力向上・心身の発達を促し，スポーツへの関心・興味を高めるプログラム（Kidsチャレンジ体操スクール，跳び箱・鉄棒チャレンジスクール，ジュニア卓球スクール等）

ジュニアスポーツプログラム

3　スキルアッププログラム

基礎体力から継続的な運動効果による体力の維持管理，技術向上を目的に取り組むプログラム。また，各競技会の実施によりスポーツ水準の向上を図り，スポーツの普及と選手の発掘及び育成を推進している。（バレーボールスクール，バドミントンスクール，卓球スクール，スイミングスクール等）

スキルアッププログラム

4　障害者プログラム

障害者が定期的に個人利用できるよう，障害の状況に応じた内容や用具等を工夫するなど，施設のバリアフリー整備及びスタッフの心のバリアフリーを進め，身近な地域でスポーツに親しめる環境づくりを実施（転倒予防のための体操，市内障害者グループへの施設貸出等）

障害者プログラム

5　指導者養成プログラム

様々なニーズや能力に応じたスポーツライフの充実を図るため，資質や能力の高い指導者の育成を行う。市民一人一人のニーズに的確に応えることができる指導力を備えたスポーツ指導者の養成事業を実施（公認指導者更新講習会，普通・上級救命講習会，熱中症予防講習会等）

6　インフォメーションプログラム

総合体育館新着情報，スポーツ協会事業案内，関係団体の事業案内，情報誌発行，サークル会員募集など，あらゆる情報を定期的に発信（ホームページ，フェイスブック，案内チラシ，メールマガジン，ふれあい連絡カード等）

7　地域コミュニティプログラム

地域におけるスポーツ振興，コミュニティの拠点となるよう事業連携や防犯対策，災害時の連携を図る。また，周辺の環境保全活動として，定期的な地域清掃の実施，社会貢献活動として各種募金などを実施（自衛消防訓練，選挙対応等）

基本施策２－４　地域スポーツ指導者の育成・支援

地域スポーツ指導者のスポーツ指導に関する基礎的な知識・技能の習得を支援するとともに，体罰や暴力，その他不適切指導の根絶に向けた研修などを実施することで，スポーツ・インテグリティ（高潔性）の確保に取り組みます。

また，地域スポーツの中核的役割を担うスポーツ推進委員の資質向上を図るため，各種研修の受講等，活動の活性化に向けて取り組みます。

学校部活動の地域連携・地域移行に関しては，関係部署等による協議会等を通じて課題を整理し，地域の実情に応じた対応を図ります。

取組　指導者育成に向けた取組の充実

スポーツ医科学等の知識習得への支援や，指導者による暴力・暴言・ハラスメント[38]を無くすためのスポーツ・インテグリティ研修の受講促進など，地域スポーツ指導者の育成に向けて取り組みます。

また，地域におけるスポーツ推進の中核的な役割を担うスポーツ推進委員の資質向上を図るとともに，スポーツ推進委員会との連携・協働の促進や，東京都スポーツ推進委員協議会の講習会の受講等，活動の活性化に向けた取組を支援します。

指導者養成講習会

スポーツ医科学サポート

スポーツ推進委員研修

＜主な事業＞

- スポーツ医科学サポート
- 指導者養成プログラム
- ＦＣ東京指導者講習会
- スポーツ推進委員会への支援

取組　スポーツ指導員派遣事業の充実

スポーツ指導員バンク（指導員の登録，派遣及び紹介）事業などを通して，地域スポーツを支える指導者の活動の機会を創出します。

＜主な事業＞

- スポーツ指導員派遣事業（スポーツ指導員バンク，指導員の派遣・紹介）

38 ある言動や行動によって，相手に不快な思いをさせたり，脅したり，人間としての尊厳を傷つけたりすること。パワーハラスメント，セクシャルハラスメントなど

取組 **部活動地域連携・地域移行への対応**

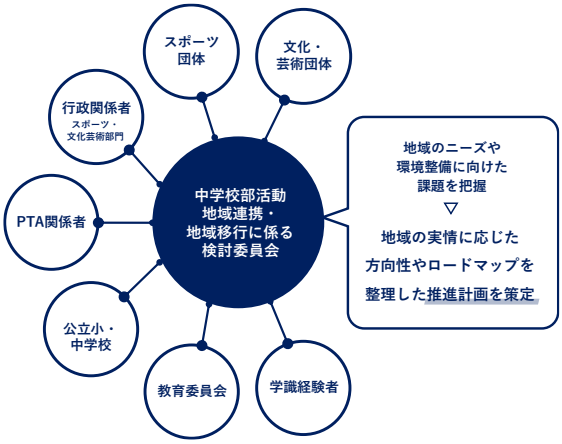
全国的な少子化を踏まえた部活動の持続可能性の確保のため，スポーツ庁の「運動部活動の地域移行に関する検討会議」において，指導者や活動場所を含めて現在の学校単位の活動から地域単位の活動に移行する提言がなされました。この提言を受けた国のガイドラインなどを踏まえ，教育委員会と連携しながら，子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の構築を進めます。

＜主な事業＞

- 調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会における検討

コラム：部活動地域連携・移行への対応

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（スポ庁，文化庁）」や，「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画（東京都）」を踏まえ，部活動地域連携・地域移行に関する課題の整理，方針等の検討を行うための協議会等の立ち上げが求められています。協議会等の中では，地域のニーズや環境整備に向けた課題を把握し，地域の実情に応じた方向性やロードマップを整理した推進計画の策定が必要です。こうした状況において，市は，教育委員会と協議しながら，検討体制を構築し，具体的な取組を進めます。



部活動地域移行･地域連携に関する検討体制イメージ

基本施策２－５　スポーツに関する情報発信の充実

より多くの市民がスポーツに関心を持ち，その活動に主体的に参加できるよう，市ホームページやＳＮＳ等の多様な媒体・手段を活用してスポーツに関する情報を分かりやすく魅力的に発信します。

取組　市ホームページ等でのスポーツ情報の充実

より多くの市民がスポーツに関心を持ち，その活動に主体的に参加しやすくなるよう，スポーツイベントの開催情報や，スポーツ施設の利用に関する情報等を，市ホームページや広報誌等を活用し，提供します。また，情報格差（デジタル・ディバイド）[39]が極力生じることのないよう多様な媒体・手段を用いてスポーツに関する情報発信を行います。

＜主な事業＞

- スポーツ情報の充実
- 指定管理者におけるスポーツ情報の発信

調布市スポーツ協会が発行するスポーツ情報誌

取組　SNS 等を活用した情報発信の充実

「東京都調布市スポーツインフォメーション【公式】（Ｘアカウント）」をはじめ，市公式ホームページや LINE 等の多様な手法により，イベント情報や地域スポーツ団体の活動，トップスポーツチームに関する情報発信など，より多くの市民がスポーツ情報を入手できるよう，分かりやすく魅力的な情報発信を行います。

＜主な事業＞

- ＳＮＳ等を活用した情報発信の充実（東京都調布市スポーツインフォメーション【公式】（Ｘアカウント）を活用した情報発信など）

調布市スポーツ
インフォメーション
【公式】X アカウント

39 インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差。

取組 **スポーツや健康に関する普及啓発**

心身の健康の維持・増進や体力の向上を図り，健康で活力に満ちた長寿社会の実現につなげるため，スポーツを通じた健康づくりについて普及啓発を行います。また，健康への無関心層や運動することに積極的ではない人が身体を動かす習慣を身につけ，ウォーキングなどの気軽に取り組めるスポーツをはじめるきっかけづくりやスポーツに取り組むことができる場や機会の提供，ライフステージや世代に合わせた普及啓発に取り組みます。

調布市
ウォーキングマップ

＜主な事業＞

- 健康に関する講座の実施
- ウォーキングの推進（ウォーキングマップの啓発）

基本目標３　スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進

基本施策３－１　地域ゆかりのアスリートの支援

市にゆかりのあるアスリートが，“地域から応援されること”を後押しするとともに，市民が一体となって応援し，交流を図ることで，アスリートへの応援機運を醸成し，市民のスポーツへの参加を促進します。

また，ジュニアアスリートへの支援などを通じて，次代を担うスポーツ選手の発掘・支援に取り組みます。

取組　**調布市ゆかりのアスリートの応援**

市にゆかりのあるアスリートを「調布市応援アスリート」として認定し，市をあげて応援することで，アスリートのさらなる飛躍を期待し，市民が一体となって応援する機運を醸成します。また，世界を舞台に活躍したアスリートへは，アスリートへの表彰制度を通してその栄誉を称え，更なる活躍を後押しします。

特集動画の制作・YouTube での公開（スポーツクライミング青柳未愛選手）

＜主な事業＞

- 調布市応援アスリート事業
- アスリートへの表彰制度（市民スポーツ栄誉賞，市政功労賞）

コラム：調布市応援アスリート事業とは

調布市にゆかりのあるアスリートを「調布市応援アスリート」として認定し，市をあげて応援することにより，“地域から応援されること”を後押しし，アスリートのさらなる飛躍を期待するものです。また，市民が一体となって応援し，交流を図ることで，市民のスポーツへの関心や活動意欲を高め，スポーツ振興へと繋げることを目的としています。

主な取組としては，市報や市ホームページ，公式ＳＮＳを活用した応援アスリートの紹介，大会出場情報の発信，大会結果やインタビュー等の掲載，また市が実施するイベントや講演会などに講師やゲストとして招待しています。

W 杯出場時の応援横断幕（サッカー相馬勇紀選手）

取組 **次代を担うスポーツ選手の発掘・支援**

市内で活動し，かつ全国大会等に出場するスポーツクラブ又は個人の活動に対し，報奨金を交付することで，次代を担うスポーツ選手の発掘・支援に取り組みます。また，調布市スポーツ協会と連携し，加盟団体のジュニアアスリートを対象とした支援を通して，競技力の向上と高い競技水準の維持・定着を目指します。

アスリートを支援する取組

＜主な事業＞

- 国際・全国スポーツ大会出場報奨金事業
- ジュニア育成地域推進事業（調布市スポーツ協会事業）

No.	氏名	競技	認定日
1	山崎　悠麻	パラバドミントン	2017 年　11 月　29 日
2	森薗　政崇	卓球	2018 年　5 月　16 日
3	平川　　怜	サッカー	2018 年　7 月　24 日
4	桃田　賢斗	バドミントン	2018 年　12 月　20 日
5	有安　諒平	パラローイング，クロスカントリースキー	2019 年　7 月　24 日
6	松田　天空	パラ水泳	2019 年　8 月　13 日
7	相馬　勇紀	サッカー	2021 年　6 月　3 日
8	青柳　未愛	スポーツクライミング	2023 年　4 月　1 日
9	野村　洋介	パラ水泳	2023 年　4 月　1 日
10	宇田　幸矢	卓球	2023 年　4 月　1 日
11	内藤　智文	スキー	2023 年　7 月　20 日
12	安達　拳汰	インラインホッケー	2023 年　10 月　1 日
13	木村　美貴	パラフェンシング	2023 年　10 月　1 日
14	小林　兼輔	テニス	2023 年　12 月　25 日
15	隈元　　凌	ＩＤバスケットボール	2023 年　12 月　25 日

図表 46　調布市応援アスリート（令和６年３月現在）　※敬称略・認定順

基本施策３－２　トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進

ＦＣ東京をはじめ，市と連携協定を締結している東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，読売巨人軍や，ＮＴＴ東日本バドミントン部などのトップスポーツチームと連携・協働し，トップアスリートとの交流機会やトップスポーツの観戦・応援機会を創出します。

また，トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化により，市民スポーツの振興はもとより，青少年の健全育成，文化，福祉，地域経済活性化等の様々な分野で連携したまちづくりに取り組みます。

取組　トップアスリートとの交流機会の創出

トップアスリートによるスポーツ教室の実施や多様なスポーツイベントにおけるトップアスリートとの交流，トップアスリートとより身近に交流できる場の創出を通じて，スポーツへの興味・関心を喚起し，スポーツをはじめるきっかけづくりを行います。また，トップアスリートとの交流を通して，次代を担う子どもたちへ，夢や希望，そして多くの学びを届けます。

ＦＣ東京による学校訪問

＜主な事業＞

- トップアスリートによるスポーツ教室の実施
- 多様なスポーツイベントにおけるトップアスリートとの交流機会の創出
- トップアスリートとより身近に交流できる場の創出

取組　トップスポーツの観戦・応援機会の創出

トップスポーツチーム等との連携により，市民が身近な場所で，気軽にトップスポーツを観戦する機会を創出します。また，シティドレッシング[40]や，多様な分野でのトップスポーツチームとの連携による取組などを通して，市民とトップスポーツチームとの接点を生み出すことで，市民のチームへの愛着や，チームの地域への愛着を育み，スポーツを核としたまちづくりを推進します。

ラグビーリーグワン観戦バスツアー
（秩父宮ラグビー場）

イースタン・リーグ公式戦
調布市フェスタ(読売ジャイアンツ球場)

＜主な事業＞

- 市民観戦事業の実施
  （ＦＣ東京，東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，読売巨人軍など）
- トップスポーツチームとの連携による多様な分野でのまちづくりの推進
  （ＦＣ東京青赤ストリートの開催など）

40 まち全体を装飾する取組のこと。

取組　トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化

豊富なスポーツ資源を活用したまちづくりの推進に向けては，トップスポーツチーム等との連携が不可欠です。また，近年では近隣自治体との連携や，スポーツ分野以外のステークホルダーとの協働による取組も増加しています。こうした取組を更に発展させるべく，トップスポーツチームの地域貢献活動への支援や，ステークホルダー間のコミュニケーションの円滑化，また双方 Win-Win な関係の継続など，各主体とのパートナーシップの強化に向けて取り組みます。また，トップスポーツチームとの連携については，その連携効果を高められるような取組を検討します。

ＦＣ東京による地域貢献活動
（初心者フットサル教室）

ＦＣ東京庁内プロジェクト
チームの様子

NTT 東日本バドミントン部
リモート教室

ラグビー５者連携協定
締結式

読売巨人軍との
連携協定締結式

胎内ディアーズファンフェスタ

＜主な事業＞

- トップスポーツチームによる地域貢献活動への支援
- ＦＣ東京との連携に向けた庁内プロジェクトチームや情報交換会，ホームタウン６市[41]との行政分科会の開催などによるステークホルダー間の連携の円滑化
- ラグビー３市協議会
- トップスポーツチームとの連携効果を高める取組の検討

41　ＦＣ東京のホームタウン（東京都）のうち，ＦＣ東京へ出資を行っている自治体の総称。出資自治体は，調布市をはじめ，府中市，三鷹市，小平市，西東京市，小金井市の計６自治体が名を連ねている。

基本施策３－３　多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進

市内の東京スタジアム（味の素スタジアム）や武蔵野の森総合スポーツプラザを含むエリアは，多摩地域の一大スポーツ拠点となっており，ラグビーワールドカップ2019 や東京 2020 大会が開催され，大会開催を象徴する場所として「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク」と名付けられています。こうしたエリアにおいて開催される大規模スポーツイベント等の開催支援や，多様な主体と連携した地域振興の促進などを通して，市民スポーツの振興はもとより，スポーツを核としたまちのにぎわい創出や，スポーツを通した市民の交流を促進します。

取組　大規模スポーツイベント等の開催支援

大規模スポーツイベントの誘致や開催支援，トップスポーツチームとの連携を通じ，市民が一流のプレーを観戦する機会や，市民がスポーツによる夢や希望，感動を共有する機会を創出します。また，トップスポーツチーム等の多様な主体と連携し，ホームゲームやイベント等への集客促進を支援することで，交流人口の拡大を目指します。

＜主な事業＞

- 大規模スポーツイベント等の開催支援
- 市民観戦事業の実施

取組　大規模スポーツイベント等と連携した地域振興の促進

市ゆかりのアスリートや，市に拠点を置くトップスポーツチームの存在や活躍は，シビックプライド[42]の醸成につながります。その活動や試合の開催等により，多くの人が地域に集まり，様々な消費を中心とした経済効果を生むなど，まちのにぎわい創出や，地域経済活性化，また交流人口の拡大によるコミュニティの活性化など地域振興に寄与します。

トップスポーツチームをはじめ，地域や関係団体等，多様な主体と連携しながら，スポーツによる地域振興の促進に取り組みます。

＜主な事業＞

- トップスポーツチームと連携した地域振興促進の取組
- 大規模スポーツイベント等との連携による取組

42 地域や自治体に対する住民の誇りや愛着，そして地域社会に貢献する意識を指す言葉。

コラム：青赤ストリート

市は，ＦＣ東京をはじめ，地域住民や商工会，観光協会，スポーツ協会など地域の関係団体と連携して「調布市×ＦＣ東京まちづくり実行委員会」を設置し，市のスポーツ振興及び産業振興を目的に，官民連携の下「青赤ストリート」を開催しました。

「青赤ストリート」はＦＣ東京のホームゲームに併せて開催しています。飛田給駅から味の素スタジアムまでを歩行者専用道路とし，調布市のＰＲブースやキッチンカーの出店，多くの市内事業者の出店するマルシェの展開，また，特設ステージでの市内団体等による各種パフォーマンスの実施など，多種多様な内容でファン・サポーターの方はもちろん，地域の方々にも楽しんでいただけるイベントです。

「青赤ストリート」は，ＦＣ東京と積み重ねてきた関係性なくしては実現出来なかったイベントです。市では平成 11（1999）年のＦＣ東京クラブ創設時から連携をスタートして以降，パートナーシップを強化しており，現在では年間で 40 以上の連携事業を実施しています。

市は，今後もＦＣ東京と連携し，スポーツ振興のみならず青少年の健全育成，市民の健康づくり及び地域振興等の様々な面でまちづくりを推進していきます。

第３回青赤ストリート（令和５年 10 月 28 日）

基本施策３－４　大規模スポーツイベントのレガシーの活用

ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会を契機として構築・発展した様々なパートナーシップを更に活用・発展させ，スポーツ分野のみならず，青少年健全育成，文化，平和，福祉，地域経済活性化等，他分野間の連携を促しながら，多様な主体との連携・協働によるまちのにぎわい創出や市民の交流を促進します。

また，パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の理念に基づき，障害当事者の運動機会創出やパラスポーツの普及・啓発，東京 2025 デフリンピックを契機とした取組の推進などを通して，共生社会の充実を図ります。

取組　大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展

大規模スポーツ大会を契機とした多様な主体との連携による取組を継続・発展させ，更なるスポーツ振興へつなげます。

また，ラグビーワールドカップ 2019 のレガシーである東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，調布市，府中市，三鷹市とのラグビー５者連携協定や，東京 2020 大会を契機とした日本車いすバスケットボール連盟との連携協定など，大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展を図ります。

＜主な事業＞

- 東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，調布市，府中市，三鷹市によるラグビー５者協定の活用
- ラグビーとの地域協創を推進する自治体連携協議会（通称：自治体ワンチーム）の活用
- 東京都市町村ボッチャ大会の継続開催
- 東京 2020 オリンピック自転車ロードレースのレガシーの活用
- スポーツボランティアネットワーク[43]の活用
- 日本車いすバスケットボール連盟との相互協力協定の活用
- 武蔵野の森総合スポーツプラザと連携した取組の継続

43 日本スポーツボランティアネットワーク（2023 年 3 月末解散）が培ってきた全国のスポーツボランティア推進団体のネットワークを継承・発展させるため，2023 年 4 月に設立した連絡協議会。 行政や教育機関，スポーツ推進団体，プロスポーツチームなど，様々なスポーツボランティア推進団体との情報共有，連携協働を通じて， 全国のスポーツボランティアの普及・発展に寄与し，スポーツボランティア文化の醸成を図ることを目的としている。

取組　他分野間連携の推進

ラグビーワールドカップ 2019，東京 2020 大会と世界最大級のスポーツイベントが市内で開催されることを契機に，大会の準備段階から開催後にわたり長期的・継続的に享受できる有形・無形のレガシーを創出するため，調布市アクション＆レガシープランに掲げた５つのテーマに基づく取組を展開しました。

各分野における取組については，大規模スポーツイベントのレガシーとして，スポーツをハブとした（「スポーツ×〇〇」）青少年の健全育成，文化，福祉，地域経済活性化等の他分野間の連携を推進することで，多様な主体との連携・協働によるまちのにぎわい創出や市民の交流促進に取り組みます。

（左）東芝ブレイブルーパス東京と連携した障害者余暇活動支援事業（ほりで～ぷらん）（スポーツ×福祉）
（右）ビッグハートプロジェクト[44]（スポーツ×文化）

（左）ピースメッセンジャージュニア[45]の取組（スポーツ×平和）
（右）読売ジャイアンツ現役選手の調布市広報大使への就任（スポーツ×まちづくり）

＜主な事業＞

- スポーツ×福祉
- スポーツ×文化･国際交流･平和
- スポーツ×まちづくり
- スポーツ×産業・観光振興
- スポーツ×教育・青少年の健全育成

など

44 共生社会の大切さをアートの力で発信する取組のこと。平成 29 年度から実施している「パラアート展」の応援企画として，「パラハートちょうふ」にちなみ，カラフルなガムテープを使って手のひらサイズのハートをつくり，約１万 1800 枚のハートを横５メートル，縦１０メートルのシートに貼り合わせ，１枚の大型アート作品を製作。

45 次世代を担う子どもたちに戦争の悲惨さや平和への大切さについて肌で学ぶ機会を設け，その成果を広く市民へ還元することを目指す事業の１つとして実施。ＦＣ東京と連携し，市内の小学生を夏のアウェイゲーム開催にあわせて「ピースメッセンジャージュニア」として派遣。各地に遺る戦跡巡りなどの平和学習を行い，その成果を市主催イベントなどで活動報告として市民に還元する取組。

取組　パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の取組推進

東京 2020 大会の大会ビジョンには，「多様性と調和」という基本コンセプトが掲げられました。市は，大会開催を契機として，共生社会の重要性をこれまで以上に発信するため，「パラハートちょうふ」を掲げながら様々な分野で取組を展開しています。

この「パラハートちょうふ」には，「市内外の多くの方々が障害に対する理解を深め，一人一人が寄り添い，手を取り合って暮らせる共生社会を充実させたい」という思いを込めて取組を展開してきました。市は，この考え方を更に発展させ，すべての人が障害の有無，国籍，性別などによって分け隔てられることなく，一人一人の個性が尊重され暮らしやすいまちを目指します。

スポーツ分野においては，障害当事者の運動機会創出や，パラスポーツの普及・啓発，デフリンピックを契機とした取組の推進等を通して，共生社会の充実を図ります。

パラハートちょうふ

つなげよう，ひろげよう，
共に生きるまち

パラハートちょうふのロゴ

パラハートちょうふの
アートデザイン

＜主な事業＞

- 「パラハートちょうふ」の理念に基づいた取組の推進

コラム：東京都市町村ボッチャ大会

障害の有無や年齢・性別などにかかわらず，誰もが同じルールのもとで楽しむことができるボッチャ。東京都市町村ボッチャ大会は，東京 2020 大会の多摩地域での開催決定をきっかけとして，東京都市オリンピック・パラリンピック連絡協議会の提案のもと令和元（2019）年度に始まりました。

東京 2020 大会終了後も，ボッチャを広く多摩地域で実施することで，多摩地域全体における大会のレガシーとして，パラスポーツも含めたインクルーシブスポーツの普及・啓発を図っていくことを目的に，引き続き多摩地域の市町村が連携して開催しています。

東京都市町村ボッチャ大会（令和５年度）

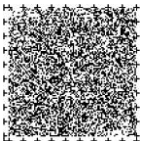
コラム：日本車いすバスケットボール連盟との協定

市では，東京 2020 パラリンピック競技大会の車いすバスケットボールの市内開催を見据え，平成 30（2018）年度から天皇杯や三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP の開催などを通じ，一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟と相互協力関係を構築してきました。そして，令和元（2019）年８月，市と同連盟は車いすバスケットボールを通じた障害者スポーツの発展・振興事業，共生社会の実現に資する事業などについて相互協力に関する協定を締結しました。

東京 2020 大会開催の翌年からは，市と同連盟に競技会場となった武蔵野の森総合スポーツプラザを加えた三者の連携により，大会のレガシー継承・発展と障害者スポーツの振興，共生社会のさらなる充実を目指し「車いすバスケットボール Chofu エキシビションマッチ in むさプラ」を開催。国内トップクラスのチームによるエキシビションマッチや車いすバスケットボール体験を実施しています。

協定締結式（令和元年８月）

エキシビションマッチ



第 5 章　計画の着実な推進

1　推進体制

2　進行管理

1　推進体制

本計画に掲げる取組は，市が牽引役となり，調布市スポーツ推進委員会や調布市スポーツ協会，総合型地域スポーツクラブである調和ＳＨＣ倶楽部などのスポーツ関係団体，トップスポーツチーム，民間事業者，大学等，様々な主体との連携・協働によって推進します。

2　進行管理

本計画の着実な推進に向けては，上位計画である調布市基本計画に掲げるスポーツ施策に基づき展開するものとします。また，行革プラン２０２３[46]や調布市公共施設マネジメント計画に基づき，スポーツ施設の整備やスポーツ施設利用者の利用環境向上に取り組むものとします。

各基本目標に掲げるＫＰＩ[47]（成果指標）の推移については，スポーツ振興課が取りまとめ，スポーツ推進審議会を活用して定期的に進捗報告等を行うものとします。

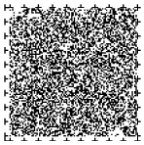
こうした取組の実施状況の確認を踏まえ，必要に応じて計画の見直しを行っていくことで，ＰＤＣＡサイクル[48]を活用した計画推進に取り組んでいくこととします。

図表 47　PDCA サイクルのイメージ

46 市政経営の基本的な考え方である「参加と協働のまちづくり」と「効果的・効率的な行財政運営」を踏まえ，質の高い市民サービスを将来にわたり持続的に提供していくため，最少の経費で最大の効果をあげるための具体的な取組を示すものであり，基本計画における分野別計画との両輪で推進するもの。

47 Key Performance Indicator（キー パフォーマンス インジケーター）の略で，業績管理評価のための重要な指標。

48 Plan（計画），Do（実行），Check（測定・評価），Action（対策・改善）の仮説・検証型プロセスを循環させ，マネジメントの品質を高めようという概念。



資料編

1　市内スポーツ施設
2　調布市スポーツ推進計画策定体制
3　調布市スポーツ推進審議会委員
4　調布市スポーツ推進計画検討会議メンバー
5　調布市スポーツ推進計画策定経過

1　市内スポーツ施設

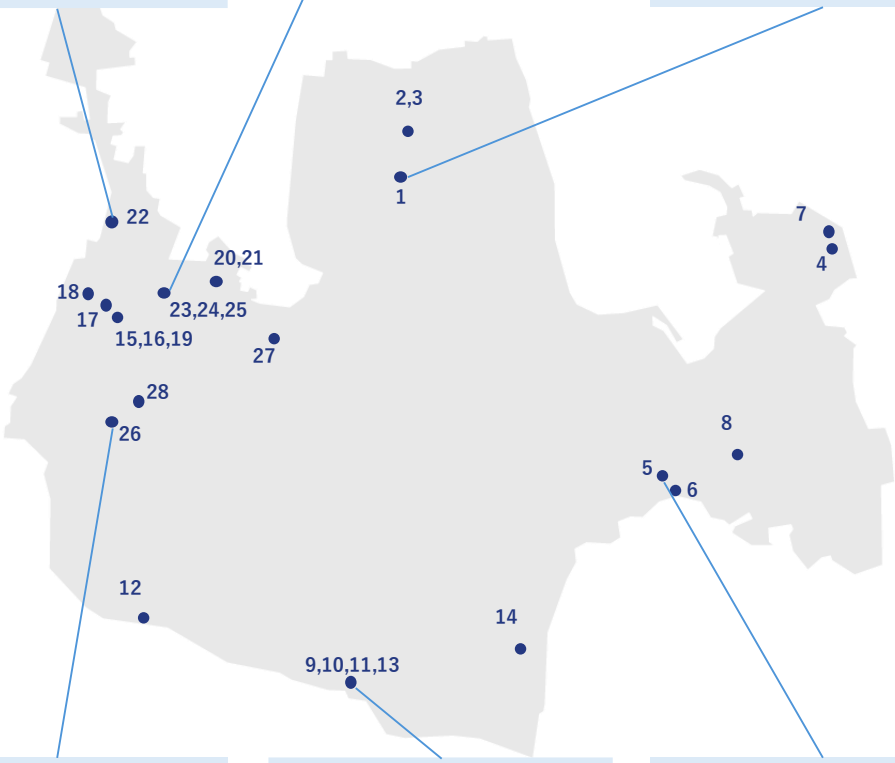
23 市民西町野球場

24 市民西町少年野球場

25 市民西町サッカー場

22 調布基地跡地運動広場

1 調布市総合体育館



26 西調布体育館

11 市民プール

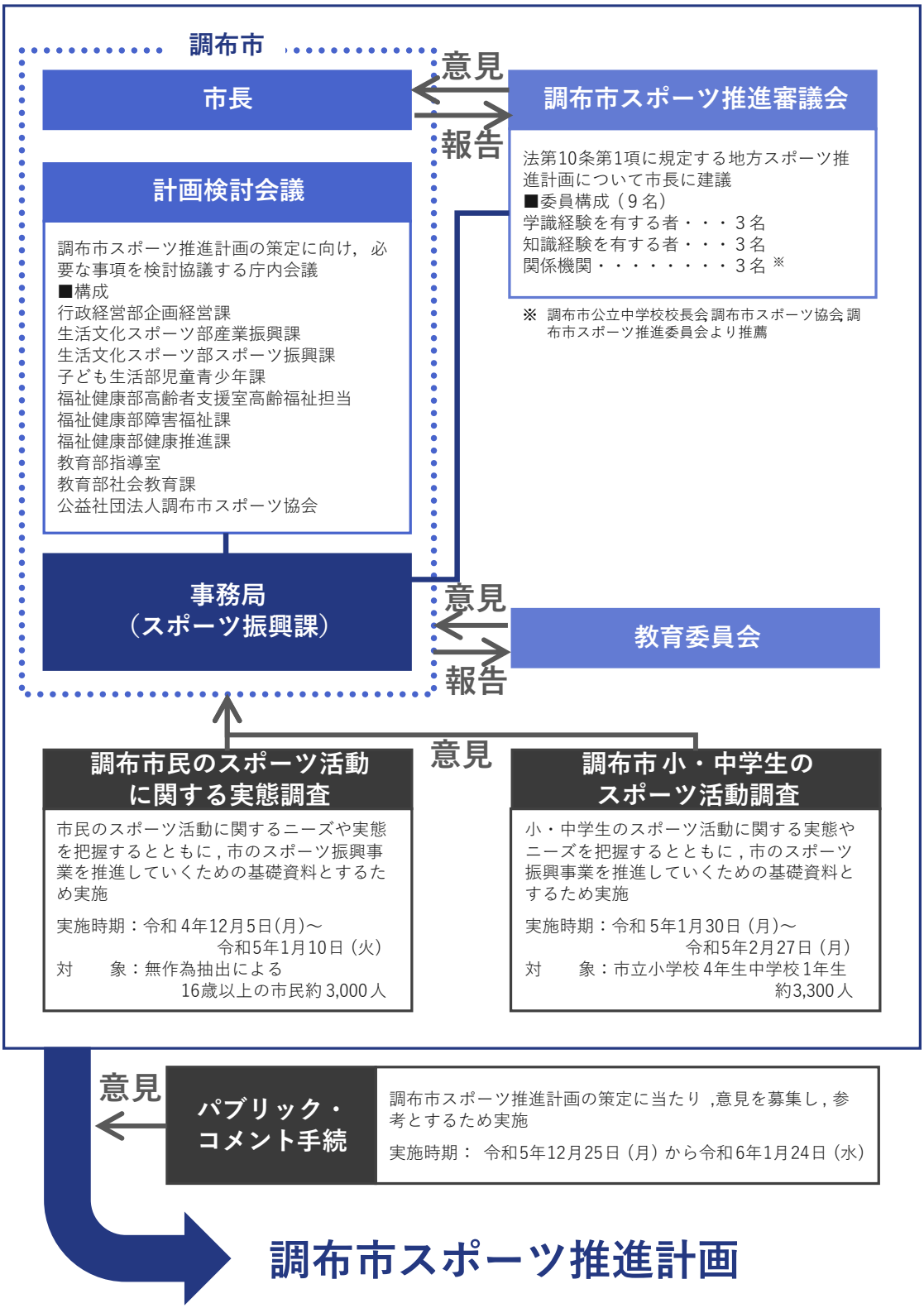
5 市民大町スポーツ施設

地域	NO.	名称[49]	施設機能	競技場等の規模
北部	1	調布市総合体育館	大体育室	1,338 ㎡
			小体育室	394 ㎡
			トレーニング室	138 ㎡
			屋内温水プール	6 コース(25m)
			ランニングコース	150 m (1 周)
			会議室	71 ㎡
	2	市民深大寺テニスコート	クレーコート 1 面	597 ㎡
			砂入り人工芝 2 面	1,203 ㎡
	3	北部ゲートボール場	クレーコート 1 面	750 ㎡
東部	4	市民緑ヶ丘テニスコート	砂入り人工芝 3 面	1,987 ㎡
	5	市民大町スポーツ施設	体育館	754 ㎡
			大運動場	2,967 ㎡
			小運動場 （砂入り人工芝テニスコート 2 面）	1,371 ㎡
			会議室	94 ㎡
	6	調和小学校プール	メイン温水プール	5 コース(25m)
			幼児用温水プール	28 ㎡
	7	緑ヶ丘ゲートボール場	砂入り人工芝 2 面	1,260 ㎡
	8	東つつじケ丘ゲートボール場	砂入り人工芝 1 面	605 ㎡
南部	9	市民多摩川テニスコート	砂入り人工芝 4 面	2,315 ㎡
	10	市民野球場	軟式野球・ ソフトボール場 1 面	9,840 ㎡
	11	市民プール	屋外プール（50m）	8 コース(50m)
			屋外プール（25m）	6 コース(25m)
			幼児用プール	12 ㎡
			変形プール	358 ㎡
	12	多摩川児童公園内運動施設	少年野球場 5 面	約 6,300 ㎡×5 面
			ソフトボール場 2 面	約 6,300 ㎡×2 面
			サッカー場 1 面	4,600 ㎡
	13	南部ゲートボール場	砂入り人工芝 1 面	352 ㎡
	14	染地ゲートボール場	クレーコート 1 面	1,127 ㎡
西部	15	味の素スタジアム	天然芝フィールド	7,597 ㎡
			フットサルコート	8 面
	16	アミノバイタルフィールド	人工芝フィールド	9,000 ㎡
	17	AGF フィールド	陸上競技場	8 レーン(400m)

49 No.15～19 は都立スポーツ施設。

地域	NO.	名称[49]	施設機能	競技場等の規模
			天然芝フィールド	7,314 ㎡
西部	18	武蔵野の森総合スポーツプラザ	メインアリーナ	4,900 ㎡
			サブアリーナ	1,800 ㎡
			多目的スペース	137 ㎡
			屋内温水プール	6 コース(25m)
			トレーニングルーム	347 ㎡
			フィットネススタジオ 2 部屋	107 ㎡・127 ㎡
			会議室 4 部屋	約 50 ㎡×2 室 約 100 ㎡×2 室
	19	東京都パラスポーツ トレーニングセンター	体育室	744 ㎡
			小体育室 2 部屋	延べ 205 ㎡
			トレーニング室	520 ㎡
			多目的室	186 ㎡
			小多目的室	107 ㎡
			多目的スタジオ	127 ㎡
			集会室 3 部屋	86 ㎡×3 部屋
	20	調布中学校テニスコート	砂入り人工芝 3 面	1,808 ㎡
	21	調布市中学校弓道場	５人立ち	168 ㎡
	22	調布基地跡地運動広場	野球場 5 面	約 12,581 ㎡×2 面 10,750 ㎡×2 面　他
			少年野球場 3 面	5,320 ㎡ 5,328 ㎡ 7,725 ㎡
			ソフトボール場 1 面	5,180 ㎡
			サッカー場 2 面	9,137 ㎡ 15,919 ㎡
			少年サッカー場 1 面	8,328 ㎡
			いこいの広場	5,856 ㎡
	23	市民西町野球場	野球場 1 面	7,370 ㎡
	24	市民西町少年野球場	少年野球場 2 面	4,727 ㎡×2 面
	25	市民西町サッカー場	サッカー場 1 面	10,188 ㎡
	26	市民西調布体育館	体育室２室	260 ㎡×2 室
			ミーティングルーム	64 ㎡
	27	富士見町ゲートボール場	砂入り人工芝 1 面	2,414 ㎡
	28	西調布ゲートボール場	クレーコート 1 面	404 ㎡

2　調布市スポーツ推進計画策定体制



3　調布市スポーツ推進審議会委員

令和６年３月現在（会長，副会長以下の委員は 50 音順・敬称略）

区分	氏名	備考
会長	菊山（きくやま）　直幸（なおゆき）	公益財団法人日本中学校体育連盟　参与
副会長	岡田（おかだ）　英孝（ひでたか）	国立大学法人電気通信大学 共通教育部健康・スポーツ科学部会　教授
	遠藤（えんどう）　貴大（たかひろ）	野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社メガロス調布 副支配人
	北村（きたむら）　純（じゅん）	明治大学付属明治高等学校・明治中学校　副校長
	小坂（こさか）　力（つとむ）	調布市立第五中学校　校長
	小髙（こだか）　拓也（たくや）	特定非営利活動法人調和ＳＨＣ倶楽部　専務理事
	林（はやし）　まゆみ	調布市卓球連盟　副理事長
	原（はら）　寿史（としふみ）	調布市スポーツ推進委員会　副会長
	増田（ますだ）　徹（とおる）	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 スポーツ振興部　事業推進課長

任期　　令和５年 10 月１日～令和７年９月 30 日（２ヵ年）

4　調布市スポーツ推進計画検討会議メンバー

令和６年３月現在（敬称略）

区分	氏名	所属等
リーダー	小柳　邦法	生活文化スポーツ部スポーツ振興課長
サブ リーダー	石川　士朗	福祉健康部障害福祉課長
	森　赳浩	行政経営部企画経営課 産学官連携担当係長
	荻野　大治	生活文化スポーツ部産業振興課 商業観光担当係長
	渡部　孝幸	子ども生活部児童青少年課 児童館担当係長
	黒岩　尚子	福祉健康部高齢者支援室高齢福祉担当 在宅サービス係長
	竹島　陽子	福祉健康部健康推進課 成人保健担当係長
	佐藤　晋太郎	教育部指導室 副主幹（調整担当）兼指導係長
	小川　香里	教育部社会教育課 社会教育係長
	山下　淳平	公益社団法人調布市スポーツ協会 主任
事務局	吉野　秀郷	生活文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係長
事務局	村山　宏樹	生活文化スポーツ部スポーツ振興課　主任
事務局	岡部　瑞希	生活文化スポーツ部スポーツ振興課　主事

5　調布市スポーツ推進計画策定経過

日程	会議名等	主な内容
令和４年 5 月 25 日	令和 4 年度 第 1 回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画策定に向けた今後の取組等
令和４年 11 月 15 日	令和 4 年度 第 2 回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画の策定に向けた基礎調査の実施について
令和 4 年 12 月 5 日 ～ 令和 5 年 1 月 10 日	調布市民の スポーツ活動に 関する実態調査 実施	無作為抽出した 16 歳以上の約 3,000 人の市民へアンケート調査を実施
令和 5 年 1 月 30 日 ～ 2 月 27 日	調布市 小・中学生 のスポーツ活動調査 実施	市立小学校 4 年生及び中学校 1 年生約 3,300 人へアンケート調査を実施
令和 5 年 2 月 20 日	令和 4 年度 第 3 回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画策定に向けた取組状況の報告
令和 5 年 3 月 16 日	スポーツ関連団体 へのヒアリング （第一期）	スポーツ活動に関するニーズや実態を把握するため，市内のスポーツ関連団体を対象にヒアリングを実施 【ヒアリング団体】 ・調布市スポーツ推進委員会 ・調布市スポーツ協会 ・調和ＳＨＣ倶楽部
令和 5 年 3 月 28 日	令和 4 年度 第 4 回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画策定に向けた実態調査の実施結果に関する報告
令和 5 年 5 月 31 日	令和 5 年度 第 1 回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画検討状況の報告 （現状の課題整理など）
令和 5 年 6 月 28 日	第 1 回 スポーツ推進計画 検討会議	スポーツ推進計画検討状況の報告 （現状の課題，施策の方向性など）
令和 5 年 7 月 26 日	令和 5 年度 第 2 回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画検討状況の報告 （現状の課題，施策の方向性など）
令和 5 年 8 月 8 日	第 2 回 スポーツ推進計画 検討会議	スポーツ推進計画検討状況の報告 （施策の方向性，成果指標案など）

日程	会議名等	主な内容
令和５年 ９月 21 日 ～ ９月 28 日	スポーツ関連団体へのヒアリング （第二期）	今後の連携に関する意見交換のため，スポーツ関連団体を対象にヒアリングを実施 【ヒアリング団体】 ・調布市スポーツ推進委員会 ・調布市スポーツ協会 ・調和ＳＨＣ倶楽部 ・調布市福祉作業所等連絡会 ・ＦＣ東京 ・東芝ブレイブルーパス東京 ・東京サントリーサンゴリアス ・読売巨人軍 ・NTT 東日本
令和５年 ９月 29 日	令和５年度 第３回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画骨子検討案について
令和５年 10 月 19 日	第３回 スポーツ推進計画 検討会議	スポーツ推進計画骨子検討案について
令和５年 11 月 28 日	令和５年度 第４回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画骨子案について
令和５年 12 月 25 日 ～ 令和６年 １月 24 日	調布市スポーツ推進計画（素案）に対するパブリック・コメント手続	意見提出件数：３件（２人）
令和６年 １月 12 日	スポーツ推進計画（素案）に対する調布市教育委員会への意見照会	意見なし
令和６年 ２月 22 日	令和５年度 第５回調布市 スポーツ推進審議会	スポーツ推進計画（案）について

調布市スポーツ推進計画
登録番号（刊行物番号）2023-171
令和６年３月発行
発行：調布市
編集：調布市生活文化スポーツ部スポーツ振興課
〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1
電話番号：042-481-7496～8
ファクス番号：042-481-6881
メールアドレス：sports@city.chofu.lg.jp

SPORT

調布市スポーツ推進計画

2024
▼
2030

CHOFU